

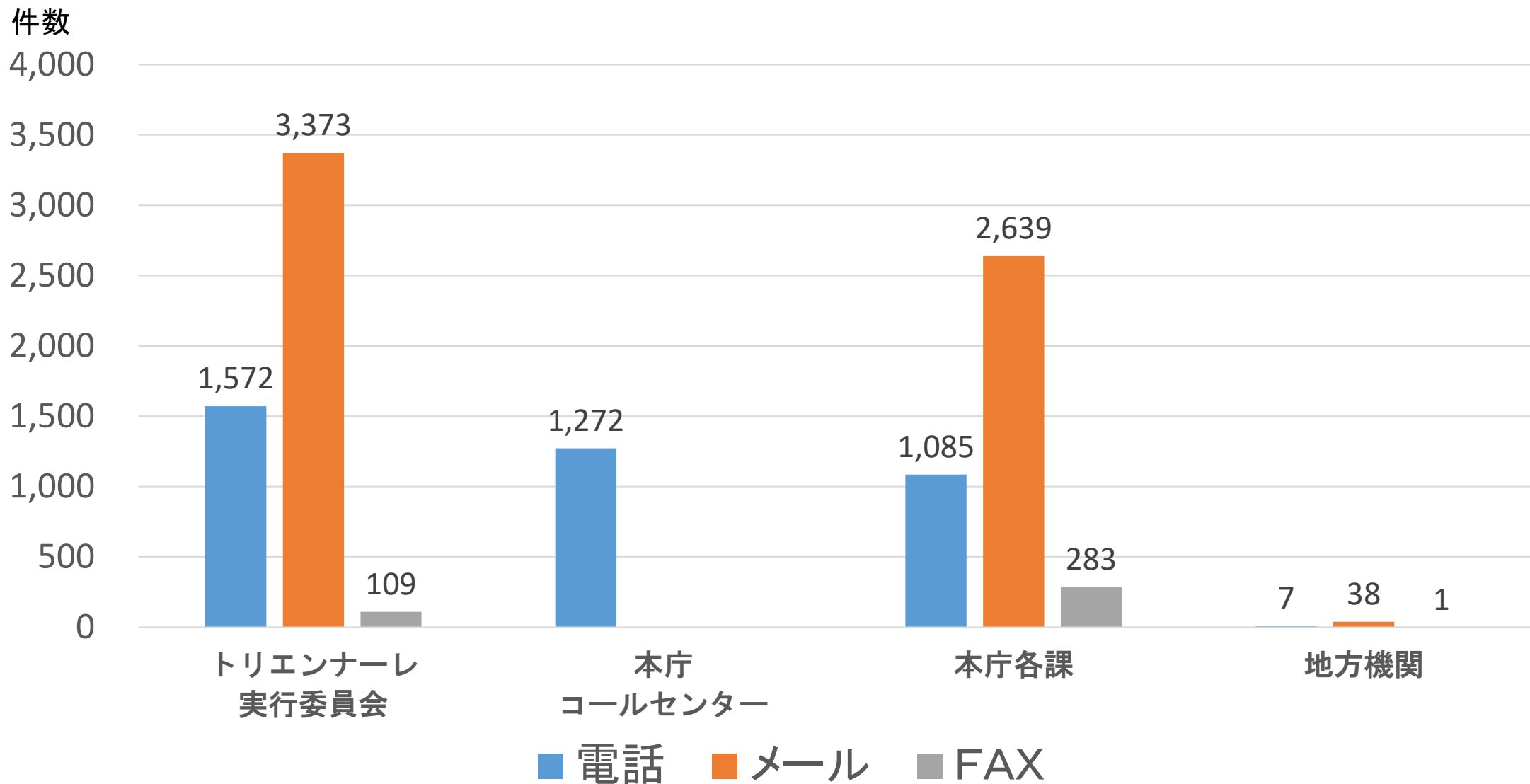
# データ・図表集

---

あいちトリエンナーレのあり方検証委員会

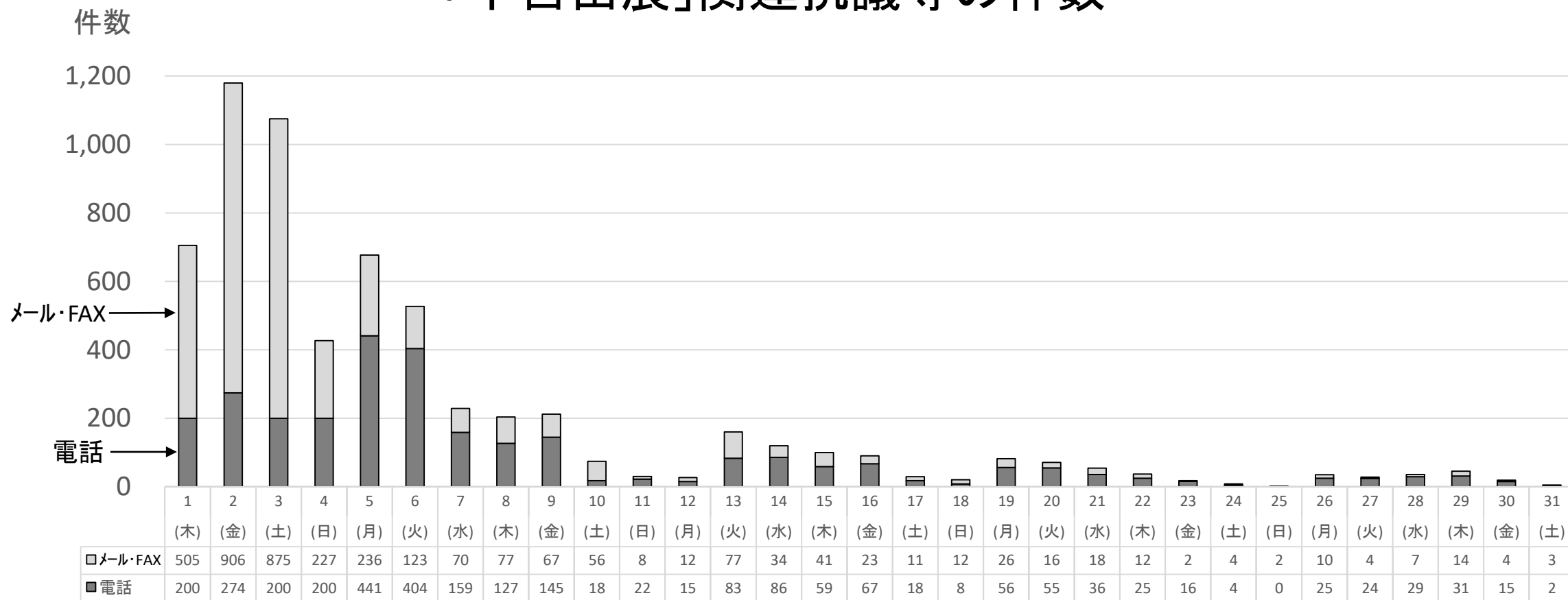
2019年9月25日

# あいちトリエンナーレ実行委員会及び県庁各部署への「不自由展」関連抗議等の件数



(注) 2019年8月1日から8月31日までの件数

# 「不自由展」関連抗議等の件数



電話抗議殺到  
 テロ脅迫FAX発見  
 県庁等電話抗議殺到  
 県庁コールセンター開設  
 知事・監督記者会見  
 不自由展・その後中止  
 テロ予告メール  
 芸文センターで現行犯逮捕  
 テロ脅迫FAX容疑者逮捕  
 県第三者委員会立上げ発表  
 芸文センター周辺で  
 ビラ掲示  
 県第三者委員会第1回開催

(注) トリエンナーレ実行委員会、本庁コールセンターで受付けたものに限る

# ソーシャルメディア型のソフト・テロ

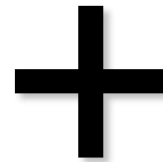
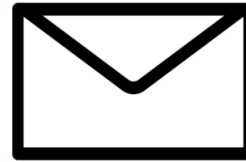
---

電凸:「死ね」「ぶち殺すぞ」等の誹謗中傷的な発言

電話: 3,936件

メール: 6,050件

FAX: 393件



京都アニメーション事件を想起させる脅迫

「ガソリン缶を持って行く」

# ソーシャルメディア型のソフト・テロ

「エビデンス無き共感」(R・キャンベル氏)

作品の写真や不正確な情報、電凸マニュアルがSNSで増幅・拡散

⇒「抗議」や「声明」が「娯楽」(祭り)に転換

⇒1件の電話では単なる抗議だが、集合すると一種の「テロ」



# 不自由展実行委員会から提供された危機管理マニュアル\*

## スタッフの心得

受付、アテンドの方へ：警備体制について、共有しておきたいことを書きます。

### 警備体制について

- ・〇〇展全体の警備は、警備チームが基本毎日〇人体制でのぞみます。（中略）。弁護団は（下略）。
- ・とくに攻撃が予想されるのは、〇〇です。
- ・初日の状況次第で、臨機応変に体制をたてなおしていきます。
- ・警備チームからのアドバイスにより、受付やアテンドでご協力いただく方に共有していただきたいことを以下に整理します。

### 「〇〇しない」「〇〇しない」「〇〇しない」

- ・〇〇の人、〇〇の妨害をする目的の人は、（中略）、入場を断ることができます。

### 〇〇してもら（複数のスタッフで）

- ・入場してから、何か言ってくる、〇〇などの場合は、「静粛な環境で〇〇ので、〇〇ご退出ください」と〇〇に退室してもら。それでもダメなら、〇〇する。
- ・それでもだめなときは、「〇〇を呼びます」と言う。
- ・度をこえた状況、「危ない！」となったら、〇〇してください。  
警備で困ったこと、わからないことは、××さんへ

（注）この紙1枚が全て。今後、同委員会が開催されるイベントの警備に支障がでないよう、一部省略あるいは〇と伏字にしています。

# 国内の政治家の発言

	発 言 者	発 言 要 旨	現地視察の有無	
県内	河村たかし 名古屋市長	<p>【8月2日】(8月3日 中日新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本国民の心をふみにじるもの」</li> <li>・「10億円も税金を使った場所で展示し、あたかも公的にやっているように見える。」</li> <li>・「表現の自由は相手を傷つけないことが絶対(条件)」</li> </ul> <p>(「松井大阪市長は、自身が河村氏に連絡し、展示が問題だと指摘したと明らかにした」(8月3日 中日新聞 朝刊))</p>	<p>【8月5日】(8月6日 朝日新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現の自由は、憲法第21条に書いてあるが、絶対的に何をやってもいいという自由じゃありません。表現の自由は一定の制約がある。」</li> <li>・「市民の血税でこれをやるのはいかん。人に誤解を与える。」</li> </ul>	有
	和田政宗 参議院議員	<p>【8月1日】(8月1日 ツイッター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「慰安婦像の展示が行われ、昭和天皇の御真影を焼く映像展示があるとの情報が寄せられた。御真影を焼く映像展示は明日確認取る。真実だとしたらとんでもないこと。あいちトリエンナーレは文化庁助成事業。しっかりと情報確認を行い、適切な対応を取る。」</li> </ul>		無
県外	小坪しんや 行橋市市議会議員	<p>【8月1日】(8月1日 WEBページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大村知事に辞表を書いて頂くような流れになるように思う。」</li> <li>・「慰安婦像の展示を、税を投じて公式に行うということは、我が国の外交に想像以上のダメージを与える。」</li> </ul>		無
	菅義偉 官房長官	<p>【8月2日】(8月3日 中日新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「審査時点では具体的な展示内容の記載はなかった。」</li> <li>・「補助金交付の決定にあたっては、事実関係を確認、精査して適切に対応したい。」</li> </ul>		無
	柴山昌彦 文部科学大臣	<p>【8月2日】(文部科学省WEBページ「大臣会見録」から引用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「展覧会の具体的な内容が判明し、企画内容や本事業の目的等と照らし合わせて、確認すべき点が見受けられることから、補助金交付の決定にあたっては、事実関係を確認した上で、適切に対応していきたい。」</li> </ul>	<p>【8月8日】(8月8日 日本経済新聞 夕刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「補助金が出る事業で、政権の意向に沿ったものしか認めないということは、毛の先ほども考えたことはない。」</li> </ul>	無
	吉村洋文 大阪府知事	<p>【8月7日】(8月8日 中日新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現の自由は保障されるべきだが、反日プロパガンダと国民が思うものを、愛知県が主催者として展示するのは大反対だ。」</li> <li>・「辞職相当だと思う。責任を取らなきゃいけない。」</li> </ul>	<p>【8月8日】(8月8日 朝日新聞デジタル版)</p> <p>松井一郎大阪市長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(大阪府の吉村洋文知事が「大村知事は辞職相当」と発言したことについて)「言い過ぎだと思う。」</li> <li>・「辞めるまでの話ではないが、説明責任はある。」</li> </ul>	無
	松井一郎 大阪市長	<p>【8月5日】(8月6日 朝日新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「税投入してやるべき展示会ではなかったのではないかな。個人が自費で様々な会合をするのは否定しない。」</li> <li>・「日本人をさげすみ陥れる展示はふさわしくない。内容についても精査すべきだった。」</li> </ul>		無

(続き)

	発 言 者	発 言 要 旨	現地視察の有無
県 外	福田富一 栃木県知事	<p>【8月6日】(8月7日 東京新聞 電子版)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「栃木県政では、圧力に屈して中止することのないようにしなくては」</li> <li>・「中止することがないようにするためには、(展示)内容が大切だということになる。それらも含めて十分検討した上で(展示した以上)、仮に反対を唱える人があっても、その人の言い分を聞いて止めるということはあるではない。」</li> </ul>	無
	達増拓也 岩手県知事	<p>【8月9日】(8月9日 共同通信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「警備が(クリア)できるなら再開すればいい。」</li> <li>・「過去に物議を醸した作品を展示するという批評精神が高いものを、そういうものだと断った上で開くことは意義がある。」</li> <li>・「個人的に気に入らなくても、権力的な立場にある人が発言すれば表現に対する萎縮効果が出る。好ましくない。」</li> </ul>	無
	杉本達治 福井県知事	<p>【8月9日】(8月10日 福井新聞 電子版)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「そういうことで中止になったのは不幸というか、あってはいけないことだ。」</li> <li>・「表現の自由がねじ曲げられたり、押しとどめられたりすることがないようにしなければならない。」</li> <li>・「公共が行う事業は、自己表現の発露としての表現の自由を守らなければならない。一方で(鑑賞などを通して)それを受ける人たちの思いが全くなくていいのかということがある。こうしたことは県内でも起きうるし、起きたことも過去にあった。行政として本当に難しい問題だ。」</li> </ul>	無
	黒岩祐治 神奈川県知事	<p>【8月27日】(8月28日 東京新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現の自由から逸脱している。」</li> <li>・(神奈川で同じ主旨の企画展があったらという質問に)「私は絶対に開催を認めない。」</li> <li>・「極めて明確な政治的メッセージがある。それを税金を使って後押しするのは、表現の自由より、政治的メッセージを後押しすることになる。県民の理解を得られない。」</li> </ul>	<p>【9月3日】(9月4日 中日新聞 朝刊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「検閲をして自分に気に食わないものも全部、表現させないという思いは全くない。率直におわびしたい。」</li> <li>・「慰安婦像展示のために公金を出すのは県民が絶対に理解してくれないと思う。」</li> <li>・「私が論じたのは慰安婦像問題。表現の自由の問題ではない。」</li> </ul>



# あいちトリエンナーレの特徴

## 複合展開

- ・主会場である愛知芸術文化センターが、美術館と劇場を有する複合施設
- ・現代美術を基軸に、映像プログラム、パフォーマンス、オペラ、音楽など幅広い分野を横断的に展開

## 広域展開

- ・名古屋市以外の都市でも開催
- ・「モバイル・トリエンナーレ」として、県内各地域でお出かけ展示を実施
- ・県内に広く現代美術を普及

## まちなか展開

- ・まちなか(空き店舗や古民家)にアート作品を展示
- ・街の賑わい(祝祭感)や気軽にアートに触れる機会を創出

## テーマ性

- ・毎回新しい芸術監督を選任
- ・時代を反映したテーマを設定し、テーマに即した作家・作品を選出

## 豊富な普及・教育プログラム

- ・文化芸術の日常生活への浸透
- ・子供から大人まで多様な来場者が現代美術に触れ、アートを体感できるようなプログラムを実施

## 都市型の芸術祭

- ・美術館を主会場に展開
- ・文化芸術の振興が主目的
- ・作品が残らない

# 「表現の不自由展・その後」のフロアの貸し出しに関する規則

## 許可の内容

- 許可をする権限は、各施設の長（愛知県美術館長）にある。  
（愛知芸術文化センター条例第5条）
- 今回は、「愛知県美術館長」が「あいちトリエンナーレ実行委員会会長大村秀章」に対して許可を出した。
- しかし、許可はあいちトリエンナーレ全体に対して出されており、「表現の不自由展・その後」の具体的な内容に照らした審査は行われなかった。

## 許可しない場合

- 次の場合は許可しないと定められている  
（愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領第8条、愛知県美術館ギャラリー利用者の手引き3（3））
  - 本邦外出身者に対する不当な差別的言動が行われるおそれがあるとき
  - 特定の個人や集団に対する不当な差別的言動が行われるおそれがあるもの
- 次に掲げるような作品は展示室に展示することができないと定められている  
（愛知県美術館ギャラリー利用者の手引き2（5））
  - 鑑賞者に著しく不快感を与えるなど、公安、衛生法規に触れるおそれのある作品
  - その他美術館長が不相当と判断する作品
- 次の場合は許可の取消し及び利用中止命令ができると定められている。  
（愛知芸術文化センター条例第10条、愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領第9条）
  - 本邦外出身者に対する不当な差別的言動が行われるおそれがあるとき
  - 公共の福祉のためやむを得ない理由があるとき

# 「表現の不自由展・その後」のフロアの貸し出しに関する規則（その1）

## 貸出の根拠規定

### 愛知芸術文化センター条例

#### （利用の許可等）

第五条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

- 一 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者
- 二 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者

#### （規則への委任）

第十二条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他センターの管理に関し必要な事項は、規則で定める。

### 愛知芸術文化センター管理規則

#### （利用の許可）

第六条 条例第五条第一項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書を美術館等の長に提出しなければならない。

#### （雑則）

第三十九条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、センター長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

- 一 美術館の展示室の利用

## 許可の取消、利用中止等の根拠規定

### 愛知芸術文化センター条例

#### （利用者の義務）

第九条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第五条第二項の規定により許可に付けられた条件及び関係職員の指示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしてはならない。

#### （許可の取消し及び利用の中止命令）

第十条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第五条第一項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第五条第一項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

### 愛知芸術文化センター管理規則

#### （雑則）

第三十九条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、センター長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

- 一 美術館の展示室の利用

# 「表現の不自由展・その後」のフロアの貸し出しに関する規則（その2）

## 貸出の根拠規定

### 愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領

（趣旨）

第1条 この要領は、愛知芸術文化センター管理規則（以下「規則」という。）第39条の規定に基づき、愛知県美術館ギャラリーの展示室（以下「展示室」という。）及び附属審査保管室（以下「審査保管室」という。）の利用許可等に関し必要な事項を定める。

### 愛知県美術館ギャラリー利用者の手引き

2 利用の御案内

(1) 利用できる催物の範囲

県民の芸術文化の向上に資すると認められる展覧会で、次に該当するものとします。

ア 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展

イ 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評

のある美術作品の展覧会

ウ その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展

## 許可の取消、利用中止等の根拠規定

### 愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領

（趣旨）

第1条 この要領は、愛知芸術文化センター管理規則（以下「規則」という。）第39条の規定に基づき、愛知県美術館ギャラリーの展示室（以下「展示室」という。）及び附属審査保管室（以下「審査保管室」という。）の利用許可等に関し必要な事項を定める。

（利用許可をしない場合）

第8条 次の各号に掲げる場合には、利用許可をしない。

(4) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動が行われるおそれがあるもの。

（許可の取消し及び利用中止命令）

第9条 館長は、展示室及び審査保管室の利用者が愛知芸術文化センター条例第9条の規定に違反したときは、条例第5条第1項に規程する許可を取消し、又は利用の中止を命じることができる。

2 館長は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、条例第5条第1項に規定する許可を取消し、又は利用の中止を命じることができる。

### 愛知県美術館ギャラリー利用者の手引き

2 利用の御案内

(5) 展示作品の制限

次に掲げるような作品は、展示室に展示することができません。

コ 鑑賞者に著しく不快感を与えるなど、公安、衛生法規に触れるおそれのある作品

サ その他美術館長が不適当と判断する作品

3 利用申込みの手續

(3) 利用許可をしない場合

次のような場合には、利用を許可しません。

エ 特定の個人や集団に対する不当な差別的言動が行われるおそれがあるもの。

## 「表現の不自由展・その後」に出展された作品の分析

分類	アーティスト	点数	作品	制作年	展示不許可となった場所	不許可の年	理由	結果	設置者	2015年「不自由展」出品(1)	2015年以降に美術館等で展示不許可(2)	その他(3)
天皇制や戦前の日本に関するのみなされた作品	大浦信行	4	遠近を抱えて(10点中の4点を出品、ただし2点は展示替えを想定して未陳)	1982-1983	富山県立近代美術館	1986年	全14点が、「富山の美術86」展終了後に県議会の教育警務常務委員会で議員によって「不快」と糾弾されたことをきっかけに、右翼団体による抗議活動を招いた。	同館が同作の非公開と売却を決定し、なおかつ同展の図録を焼却した。	公立	○	-	-
	大浦信行	1	遠近を抱えて Part II (映像)	2019	新作のため、展示不許可となっていない。	-	-	-	-	-	-	○
	小泉明郎	1	空気 #1	2016	東京都現代美術館	2016年	学芸員の難色	会場ではキャプションと照明のみを展示。館とのやりとりの記録提示も不可。	公立	-	○	-
	嶋田美子	1	焼かれるべき絵	1993	展示不許可となっていない。	-	-	-	-	-	-	-
焼かれるべき絵：焼いたもの			1993	展示不許可となっていない。	-	-	-	-	-	-	-	-
慰安婦問題や日韓問題に関するのみなされた作品	安世鴻	1	重重—中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち(8点展示)	2012	新宿ニコンサロン	2012年	開催1か月前にニコンが「諸般の事情を総合的に考慮」して、東京(6月)と大阪(9月)の展示の中止通告。写真家本人の個人情報もネット上にも流出。ニコン本社前に横断幕。	安による仮処分申請で東京での写真展は実現。大阪では実現せず、他の会場で開催。	私立	○	-	-
	キム・ソギョン/キム・ウンソン	1	平和の少女像(ミニチュア)	2011	東京都美術館	2012年	同館で開催されたJAALA国際交流展での展示で、運営要項に抵触するとされた。	会期4日目に撤去された。	公立	○	-	-
	キム・ソギョン/キム・ウンソン	1	平和の少女像	2011	公立美術館での展示実績なし。したがって展示不許可となっていない。	-	-	-	-	○	-	-
	白川昌生	1	群馬県朝鮮人強制連行追悼碑(ビデオを含む)	2015	群馬県立近代美術館	2017年	「群馬の美術2017—地域社会における現代美術の居場所」において展示される予定だったが、開幕直前になって美術館側がこれを取り消した。出品取り消しの理由について、同館は「係争中の事件に関連した作品のため展示を見送った」と説明した。	作品は開幕当日に作家自身によって撤去。作家は「わたしはわすれない」の幟を設置。	公立	-	○	-
	趙延修(チョウ・ヨンス)	1	償わなければならないこと	2016	千葉市美術館	2016年	展示はされた。	翌年に千葉市が美術館に対して補助金50万円の交付を取りやめ	(公立)	-	○	-
	横尾忠則	1	暗黒舞踏派ガメラ商会	1965	ニューヨーク近代美術館	2012-2013年	横尾の演劇や映画のポスターに用いられた「朝日」が、旧日本軍の旭日旗(自衛隊も使用中)を思わせる軍国主義的なものと在米韓国系市民団体「日本戦犯旗退出市民の会」が抗議を行った	そのまま展示。	私立	-	-	○

(つづく)

分類	アーティスト	点数	作品	制作年	展示不許可となった場所	不許可の年	理由	結果	設置者	2015年「不自由展」出品(1)	2015年以降に美術館等で展示不許可(2)	その他(3)
政府批判に関する作品	Chim ↑ Pom	1	気合い100連発	2011	バングラデシュ・ピエンナーレ	2014年	交流基金担当者の難色。	展示せず。	(不詳)	-	-	○
	Chim ↑ Pom	1	耐え難き気合い100連発	2015	美術館での展示実績なし。したがって展示不許可となっていない。	-	-	-	-	-	-	○
	中垣克久	1	時代の肖像 - 絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳 -	2014	東京都美術館	2014年	2014年2月16日、東京都美術館で開かれた「現代日本彫刻作家展」で、作品が「政治的な宣伝になりかねない」として、美術館側が作品の撤去を求めた。都美術館は運営要綱で、「特定の政党・宗教を支持、または反対する」場合は、施設の使用を認めないと規定している。	中垣氏と都美術館は協議の末、作品の表現の一部を削除することで合意し、作品は出展された。	公立	-	-	○
	マネキンフラッシュモブ	1	マネキンフラッシュモブ		屋外	2016年	海老名市が駅前自由通路で行われたグループによる、フラッシュモブが条例に違反しているとして禁止命令を出した。	一年後に、裁判を経て、命令の取り消し。	公有地	-	○	-
原発問題に関する作品	永幡幸司	1	福島サウンドスケープ	2011-2019	千葉県立中央博物館	2013年	博物館から展覧会を開催する協会に作品の作家自筆の説明パネルについて修正の依頼があった。	協会が修正して掲示	公立	○	-	-
米軍を題材とする作品	岡本光博	1	落米の恐れあり	2017	屋外(イチハナリアートプロジェクト)	2017年	うるま市観光物産協会が主催するアートイベントで、作品を展示した店を所有する地元自治会から「政治的な主張をアピールしている」などの反対意見が出た。	開催直前にベニヤで覆われた。移動し、協会の建物内で、会期最終日に再展示された。	民間	-	○	-
憲法を題材とする作品	作者非公開	1	9条俳句		さいたま市三橋公民館	2014年	埼玉県さいたま市大宮区の三橋公民館の俳句サークルで第1位に選ばれ、2014年7月の月報に掲載されるはずだった。	公民館側が拒否。その後、最高裁で掲載を認める判決。市は掲載を決める。	公立	○	-	-
焚書に抗議する作品	藤江民	1	Tami Fujie 1986 work	1994	美術館での展示実績なし。したがって展示不許可となっていない。	-	-	-	-	-	-	○
差別-排外主義に関する作品	大橋藍	1	アルバイト先の香港式中華料理屋の社長から『オレ、中国のものを食わないから。』と言われて頂いた、厨房で働く香港出身のKさんからのお土産のお菓子	2018	国立新美術館	2018年	五美大展の展示で、腐敗のリスクから、菓子本体が展示できなかった。	箱とプラスチックのケース、袋のみが展示された。	国立	-	○	-
企業広告	横尾忠則	1	ラッピング電車の第五号案「ターザン」など	2011	屋外(JR西日本ラッピング電車)	2011年	事故の遺族への配慮	採用されず。	企業	-	-	○

表の作成にあたっては「表現の不自由展・その後」のHPを参考にしつつ、情報を編集した。

- (1) 2015年の「表現の不自由展」に出品されたもの  
(2) 2015年の「表現の不自由展」以降に公立美術館などで展示不許可になった作品  
(3) 上記の二つのカテゴリーに含まれないもの

# 大浦信行『遠近を抱えて Part II』についての作者コメント

## 作品に関する説明

「もともと僕自身の「内なる天皇」を見つめようというのが一連の作品のテーマなのですが、この映像では従軍看護婦の女性にそれを託しているのです。」

「ではなぜその映像で天皇が燃えているかということ、従軍看護婦が今日蘇って天皇を燃やしているのです。彼女の中に抱え込まれた「内なる天皇」を燃やすことによって「昇華」させていくという作業なのです。あるいは「祈り」といってもよいかもしれない。そういう思いで作ったわけです。」

「戦前は皆お国のために死んでいくという考え方を吹き込まれて育ったわけじゃないですか。その一人一人の内側に抱え込まれた「内なる天皇」ですよね。それを自分の中で意識した時に「燃やす」という行為が出てくるわけです。だから「祈り」なんですね。」

「僕自身には天皇を批判するとか冒瀆する意図は全くありません。僕自身の「内なる天皇」を従軍看護婦の女性に託して祈りを捧げるということなんです。」

## 寄せられた意見や評価に関するコメント

「燃えているシーンだけを取り出して天皇批判の映像だという政治的文脈で捉えられるというのは、制作側の意図の全く違った伝わり方」

「普通の日本人ならやはり天皇が描かれたものが燃やされるというのは衝撃だとは思いますが。」

「天皇の姿が燃えている映像には心がかき乱される思いをした人がいたとしても不思議ではない。特に一定年齢以上の日本人にとって昭和天皇のイメージは独特でしょう。」



# 世界における平和の(少女)像について



グレンデールの慰安婦像



Steven Whyte Column of Strength, 2017  
San Francisco Comfort Women Memorial  
Photo: March, 2018 ©Michael Shanahan

\*報道記事と韓国政治専門家へのヒアリングによる検証



2017年12月、フィリピン歴史委員会がマニラに設置した像が、日本政府の抗議により4ヶ月後に撤去された。像は作家に戻されたが、作家は現状回復を求めて訴えを起こした。

Artist hurting over banished 'Comfort Woman' statue  
<http://bit.ly/2AwcDM9>

フィリピン、サンペドロ市で2018年12月28日に除幕式が行なわれた少女像。同月30日付の日本大使館からの抗議の後、撤去された。この像は個人からの寄付で建てられたものなので、大統領スポークスマンのSalvador Panelo氏は、このような介入は「表現の自由」の侵害にあたるのではないかと述べた。像はサンペドロ市長の私邸へと移された。像の後ろにはMonument of Peace and Women Empowerment (平和の記念、及び、女性の地位向上のために)というバナーが見える。Statue dedicated to 'comfort women' removed in the Philippines <https://upi.com/6868413t>



From the Statement on the Removal of Statue of Peace in the Philippines



# 平和の(少女)像をめぐる日本で起きたこと



今回の展示と金夫妻

少女像「撤去含め検討」

芸術祭監督が表明－愛知：時事ドットコム

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019080201308&g=soc>

\*報道記事、出版物による検証



2016年の金夫妻、東京都内で時代の正体<393>消せない加害の歴史 慰安婦像制作 カナロコ

<https://www.kanaloco.jp/article/entry-1759.html>

- ・ 日本国内での常設展示はない。
- ・ 2012年8月、東京都美術館を会場として開催された『J A A L A 国際交流展』に駐韓日本大使館前に設置されたものと同型のキム夫妻による「平和の少女像」のミニチュア・ブロンズ像が出展されたが撤去された。会場となった東京都美術館は「政治的表現であり同美術館運営規定に抵触する」というのを撤去理由とした。
- ・ 2015年、東京・練馬の民間ギャラリー古藤において『表現の不自由展』が企画され、ここに2012年に東京都美術館で撤去されたキム夫妻による「平和の少女像」が展示されることとなった。ミニチュアのブロンズ作品と鑄造過程で作られるFRP（繊維強化プラスチック）製の像がこれに合わせて日本に持ち込まれ、その後作品は日本国内にあり、今回あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」に出展されたのはこの展覧会の時のものである。
- ・ 自民党内で「『少女像』では慰安婦が少女ばかりだったような印象を与える」などと変更を求める意見が相次いだことを踏まえ、2017年、「平和の少女像」を以後「慰安婦像」と呼ぶという方針を政府が公式に決定し、発表。

少女像呼称：「慰安婦像」に統一へ 外務省が方針－毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20170203/k00/00m/030/030000c>



# 韓国においての平和の(少女)像



ソウルの日本大使館前\*に設置された慰安婦像。  
正面の建物が日本大使館。(2012年1月撮影)



釜山・日本総領事館前の少女像  
©レコードチャイナ 2017年

\* 日本大使館は取り壊され空き地になったまま4年が経過



日本大使館前の慰安婦像を囲む  
水曜デモ参加者

\*若い女性が中心で明るい雰囲気



ソウル日本大使館前慰安婦像。左のビニール  
テントは像を守っている人たちが使用している。

\*お供えものがいつもあがっているのは  
お地蔵さんのよう？

\*写真は特に記載がないものはCCライセンス

\*出版物による調査、及び、韓国・朝鮮半島政治を  
専門とする神戸大学・木村幹教授へのヒアリング  
に基づいたまとめ

## 平和の少女像の制作者(キム・ソギョン／キム・ウンソン)による「ベトナム・ピエタ」



「ベトナム・ピエタ」

©ハフポスト日本版

○ 「平和の少女像」の制作者であるキム・ソギョン／キム・ウンソン(韓国)は、戦争のない、女性と子供が搾取されない平和な世界をテーマにした作品を制作しており、例えば、ベトナム戦争時の韓国軍の民間人虐殺をテーマにした作品も制作している。

- ・ 「ベトナム・ピエタ」は、大地の女神の上で、虐殺された赤ん坊を抱く母の姿を表している。2人〔キム・ソギョン／キム・ウンソン〕は「ベトナムを訪問したら、虐殺された数多くの無名の赤ん坊が、とげとなって目に刺さってきた」と話し、「謝罪と反省の意味を込めて、理由も分からず殺されたこの人たちを記録し、慰霊したかった」と語った。
- ・ 昨年、ベトナムで韓国軍に強姦された被害者たちにも何人か会いました。(…)瞬く間に何人もの人に強姦され、夫がいながら強姦され…。被害者の方々は、外国人が村に来たので気配を伺って、周りの人を意識しながら、やっとのことで口を開いたのです。ベトナムのおばあさんたちがあんな気持ちで苦難の人生を送ってきた。胸に迫ってきました。

韓国軍のベトナム戦争虐殺、被害者を慰霊する銅像を建立へ  
作ったのは「慰安婦像」の夫妻

ハフポスト日本版

[https://www.huffingtonpost.jp/2016/01/25/vietnam-war-korean-massacre\\_n\\_9067140.html](https://www.huffingtonpost.jp/2016/01/25/vietnam-war-korean-massacre_n_9067140.html)

# 在ソウル日本大使館前の平和の少女像碑文 (左：英語、右：日本語)

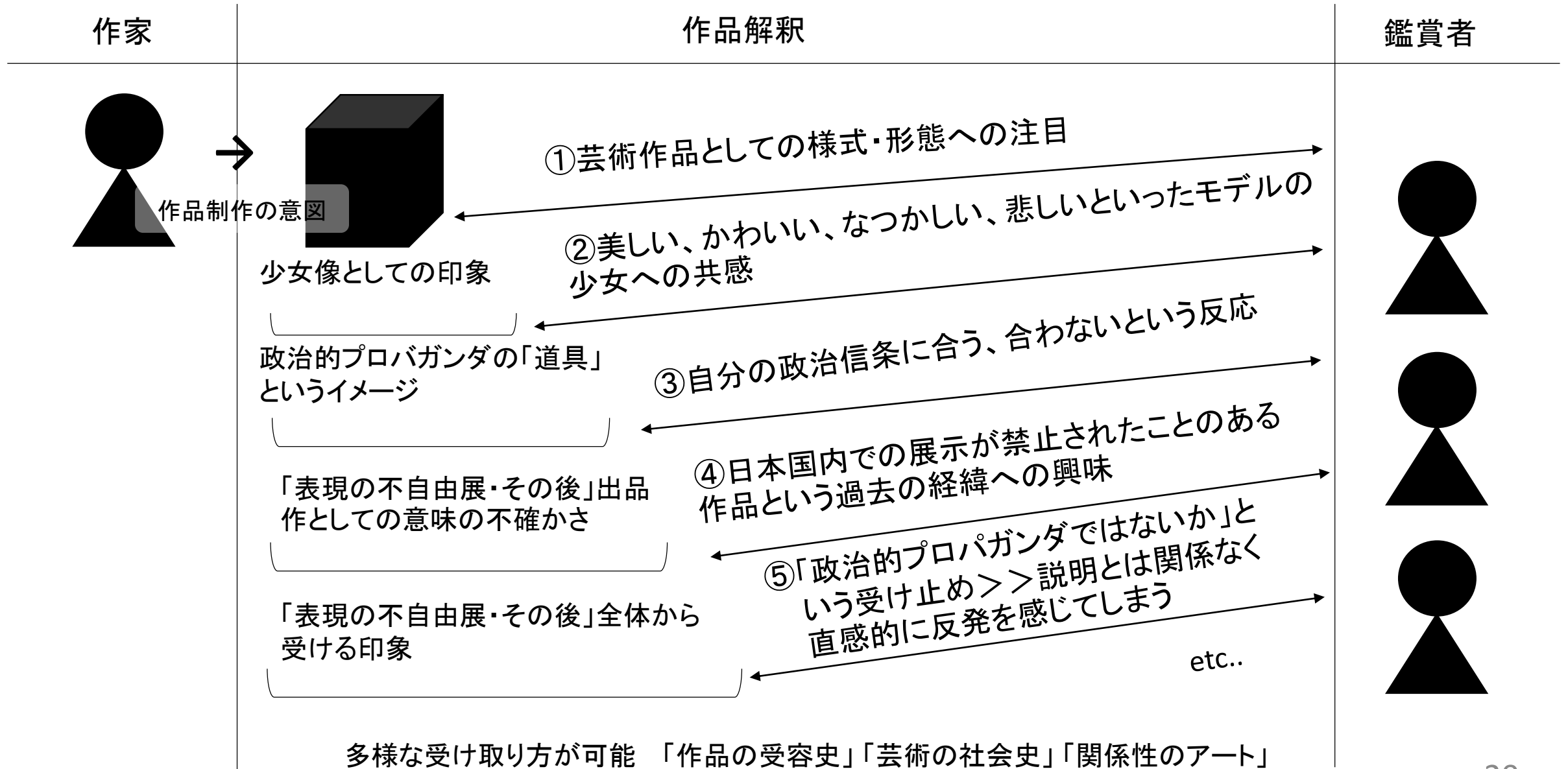
December 14, 2011 marks the 1000th Wednesday Demonstration for the solution of Japanese Military Sexual Slavery issue after its first rally on January 8, 1992 in front of the Japanese Embassy.

This peace monument stands to commemorate the spirit and the deep history of the Wednesday Demonstration.

1992年1月8日、日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜デモが、ここ日本大使館前ではじまった。

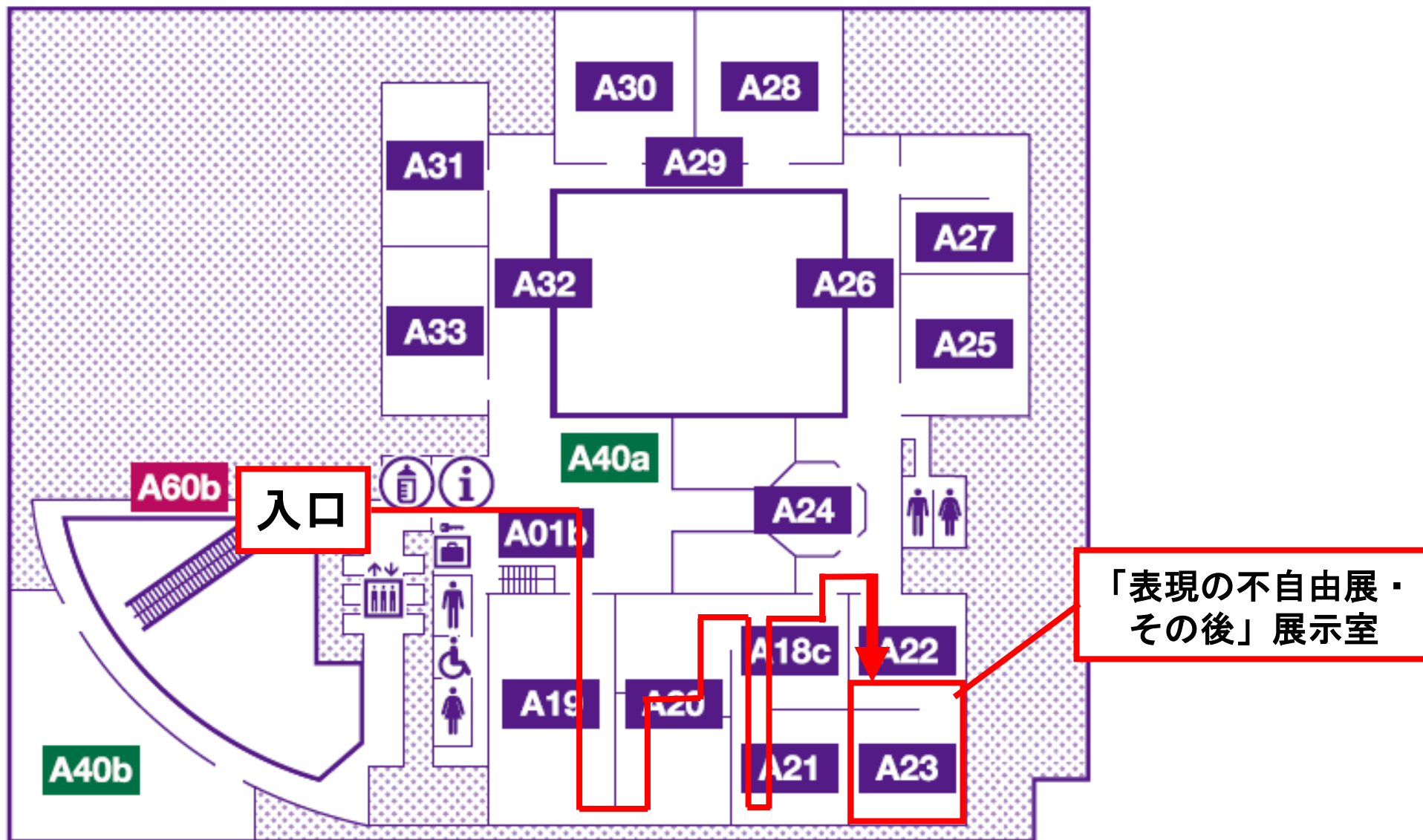
2011年12月14日、1000回を迎えるにあたり、その崇高な精神と歴史を引き継ぐため、ここに平和の碑を建立する。

平和の(少女)像 作品解釈の難しさ  
 —「政治的プロバガンダの道具」か「アート」か—



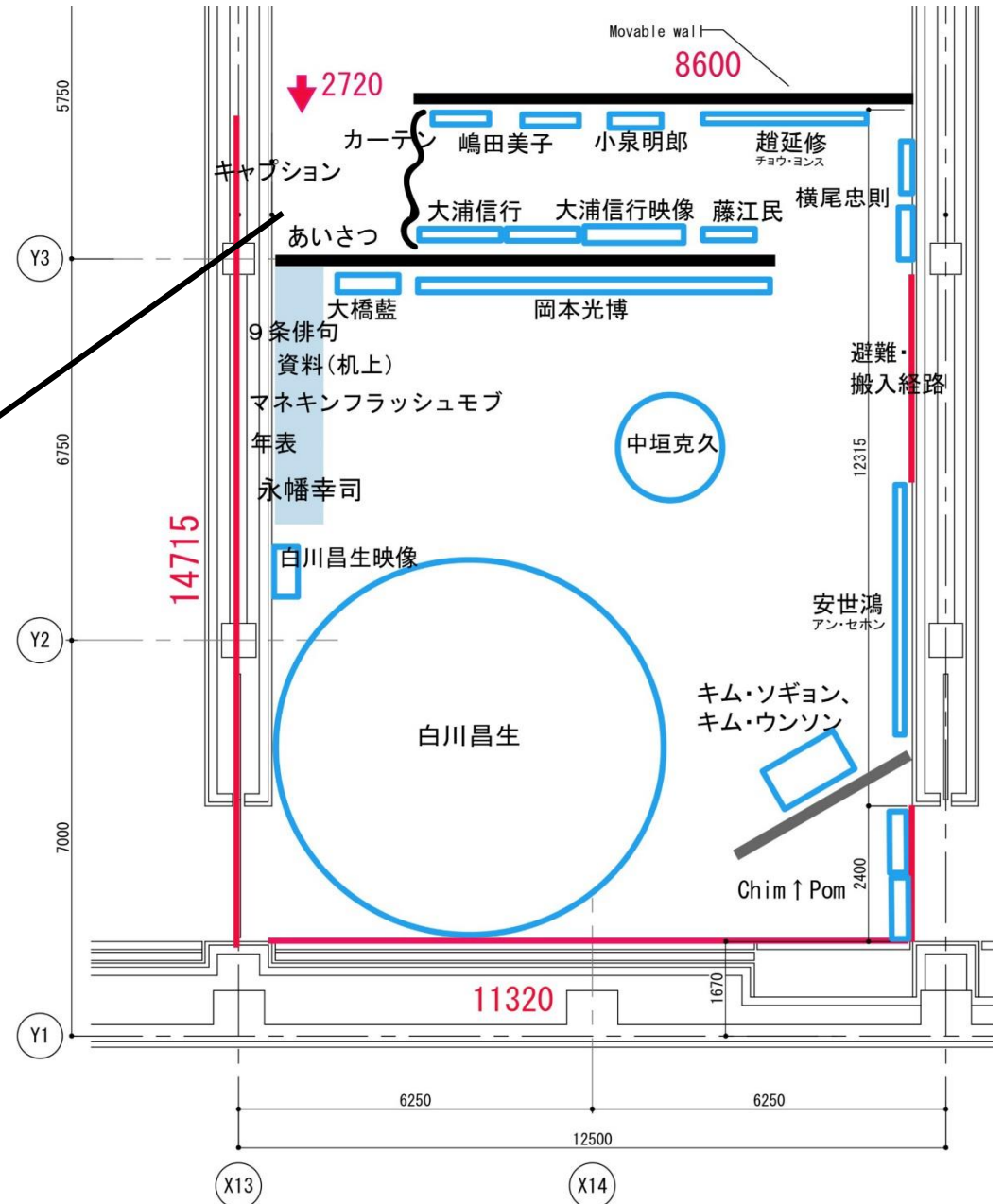
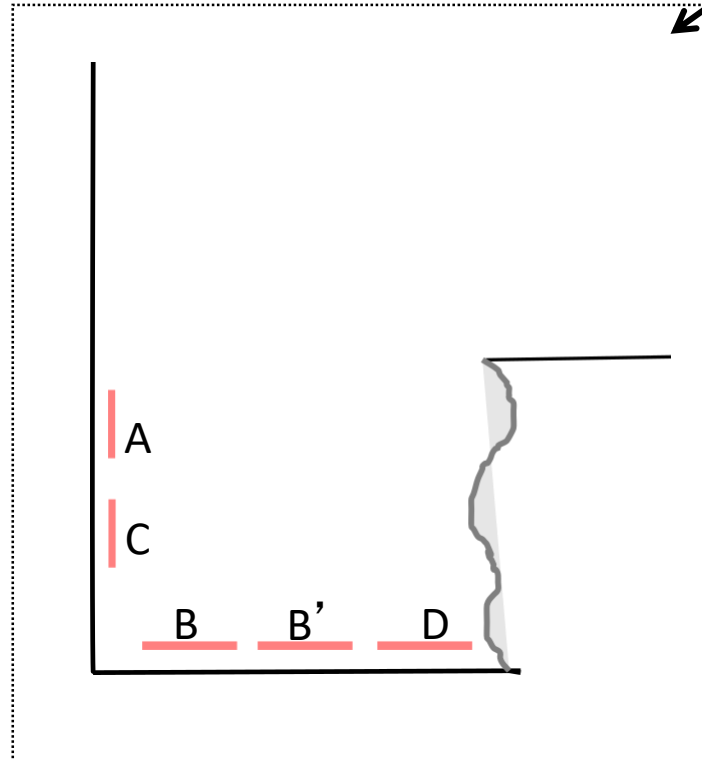


# 愛知芸術文化センター 8階 平面図



# A 2 3 展示室図面

- A あいちトリエンナーレ実行委員会による解説パネル  
(297x469mm)
- B及びB' 表現の不自由展実行委員会による挨拶文〔日B・英B'〕  
(各728x1,030mm)
- C あいちトリエンナーレ実行委員会による注意喚起  
(297x420mm)
- D あいちトリエンナーレ実行委員会、あいちトリエンナーレ2019  
芸術監督、表現の不自由展実行委員会による撮影写真・動画の  
SNS投稿禁止表示 (728x1,030mm)



# 「表現の不自由展・その後」について

## 趣 旨

「表現の不自由展」は、日本における「言論と表現の自由」が脅かされているのではないかという強い危機意識から、組織的検閲や忖度によって表現の機会を奪われてしまった作品を集め、2015年に開催された展覧会。「慰安婦」問題、天皇と戦争、植民地支配、憲法9条、政権批判など、近年公共の文化施設で「タブー」とされがちなテーマの作品が、当時いかにして「排除」されたのか、実際に展示不許可になった理由とともに展示した。今回は、「表現の不自由展」で扱った作品の「その後」に加え、2015年以降、新たに公立美術館などで展示不許可になった作品を、同様に不許可になった理由とともに展示する。

## 表現の不自由展実行委員会委員

アライ＝ヒロユキ

岩崎 貞明

岡本 有佳

小倉 利丸

永田 浩三

出典：表現の不自由展・その後WEBページ <https://censorship.social/>



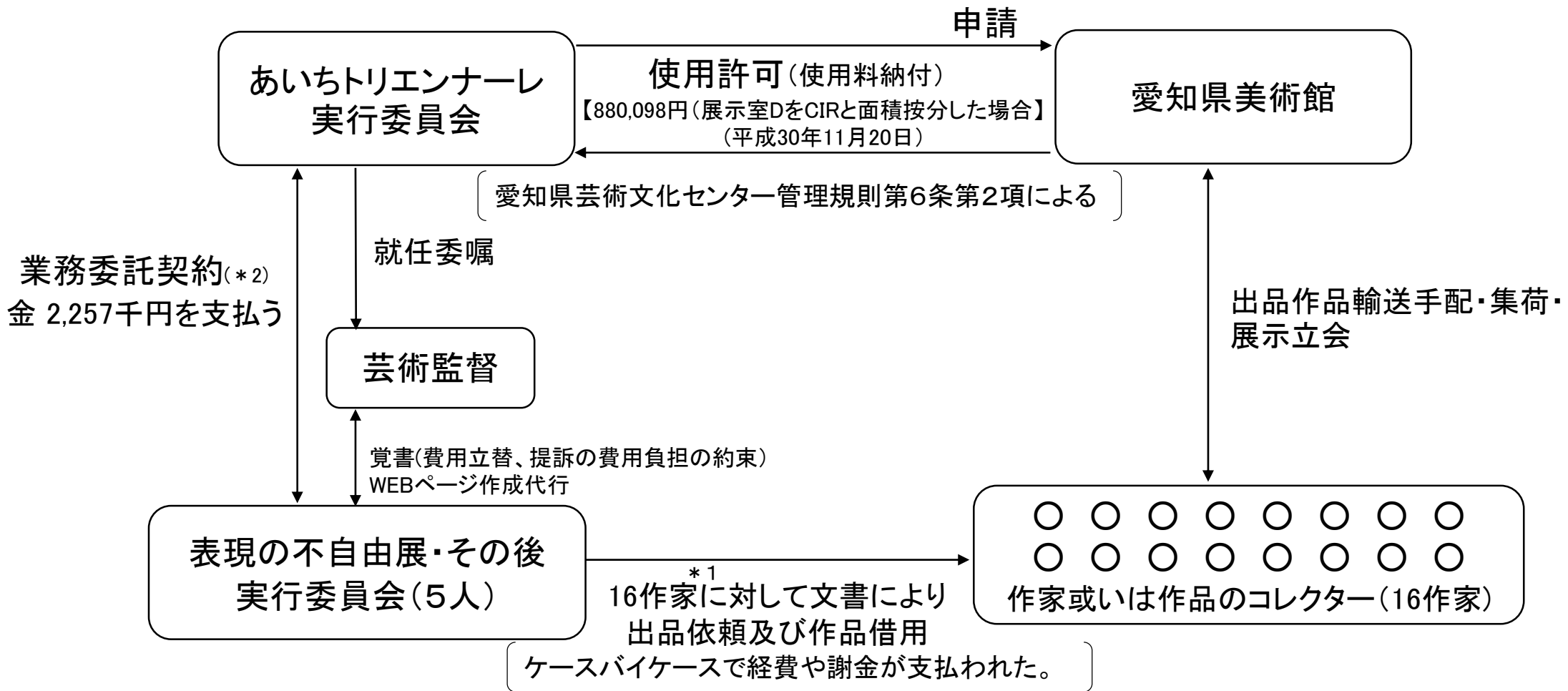
# あいちトリエンナーレ実行委員会における3者の役割分担

芸術監督	チーフ・キュレーター	会 長
<p>あいちトリエンナーレの学芸業務の最高責任者として次の業務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) テーマ・コンセプトの決定</li> <li>(2) 企画推進体制の決定※</li> <li>(3) 現代美術展に関する作家の選定等、企画内容の決定</li> <li>(4) 舞台芸術等の企画及び公演内容の決定</li> <li>(5) 普及・教育事業の企画に対する決定</li> <li>(6) 広報PRなど、トリエンナーレの企画を外部に伝える仕組みに対する助言</li> <li>(7) 会場管理、ボランティア、ショップ運営など、トリエンナーレの会場運営の仕組みに対する助言</li> <li>(8) その他、トリエンナーレ全体の方向性や展開イメージに関する助言等</li> </ul>	<p>芸術監督の指示に従い、次の業務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 芸術監督を補佐し、トリエンナーレに関わる現代美術、舞台芸術及びラーニング等の各事業の全般的な調整</li> <li>(2) (1)の調整のため、キュレーターミーティングを主催</li> <li>(3) 作品プランや展示プランの調整などのキュレーション業務</li> <li>(4) 各種事業や記者発表を含む広報など、学芸部門全体についての検討及び進捗管理</li> <li>(5) 芸術監督、キュレーター及び実行委員会との調整</li> </ul>	<p>実行委員会を代表し、会務を統括する。</p>

参考:「あいちトリエンナーレ実行委員会規約」、「あいちトリエンナーレ2019」芸術監督の業務内容等について、「チーフキュレーター 業務仕様書」(第1回検証委員会資料 参照)

※但し、芸術監督就任時には、チーフキュレーターはすでに決まっており、美術展、派パフォーマンスアーツ、映像、ラーニングのキュレーターは事務局推薦によった。芸術監督が推薦して選んだのはアドバイザー、公式デザイナー、音楽キュレーターのみで、人事権が全て芸術監督にあったとは言えない。

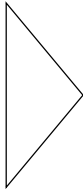
# 不自由展の役割分担関係



\* 1 但し、小泉明郎、白川昌生、Chim ↑ Pomの3作家については、当初は芸術監督から声をかけて(口頭orメール)出品を打診し、またその後も各種調整を自ら行った。

\* 2 第1回検証委員会 配布資料参照

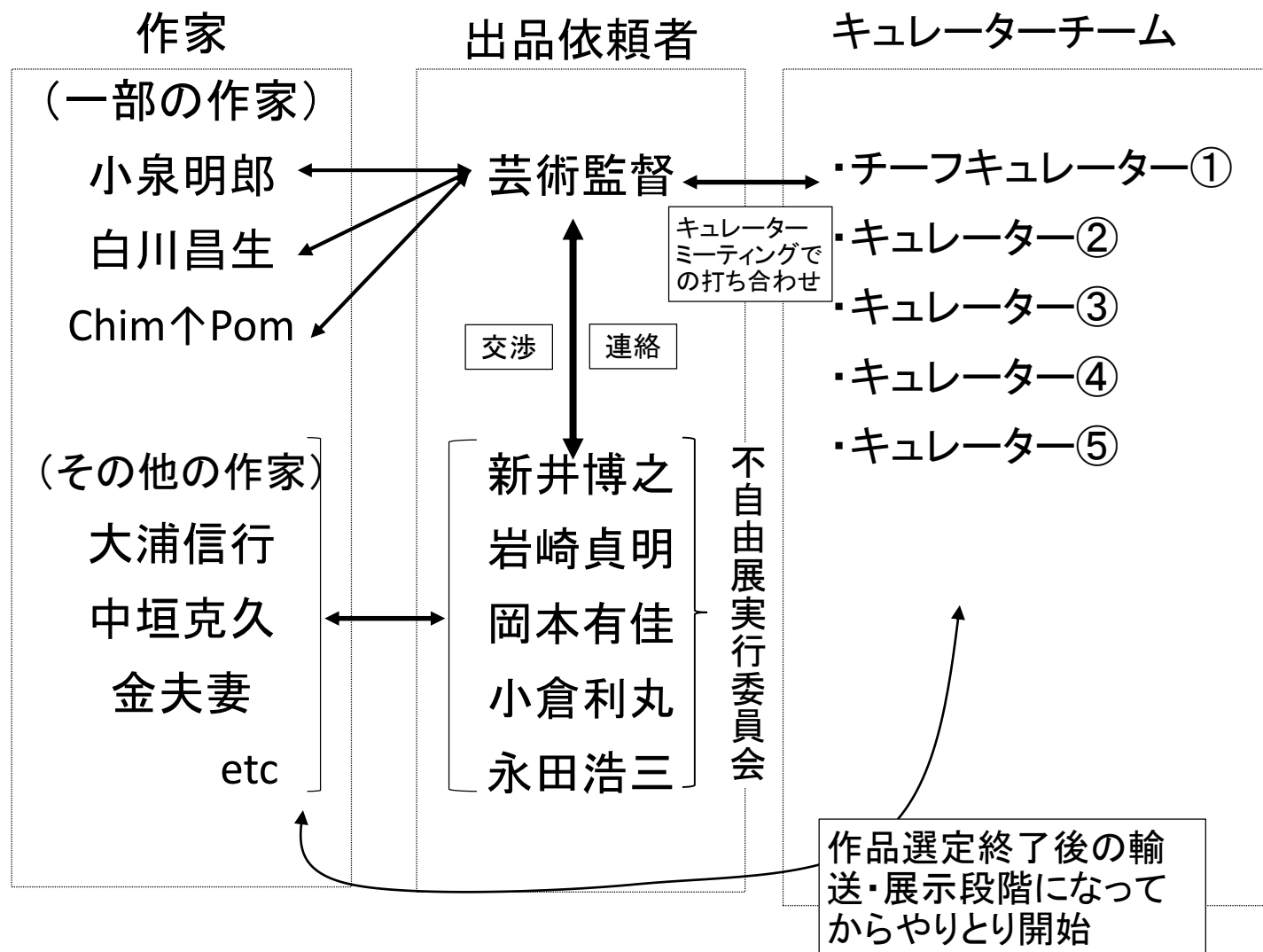
## 業務委託契約第2条について

契約書上の文言	解釈
<p>乙等は、本展への出品作品の設定、制作、輸送、展示及び撤去にあたっては、別添仕様書に記載の作品出品の展示場所に係る使用条件を遵守し、「あいちトリエンナーレ2019」芸術監督、チーム・キュレーター及びキュレーターから構成されるキュレーター・チーム（以下、「キュレーター・チーム」という。）並びに甲と協議のうえ、適切な方法で行うものとする。</p> <p>※甲：あいちトリエンナーレ実行委員会 会長 乙：「表現の不自由展」実行委員会 各委員</p>	 <ul style="list-style-type: none"><li>・不自由展実行委員会の各委員、芸術監督、キュレーター・チーム、事務局の4者は常に協議しながら、作品選定から撤去までの作業を行う。</li><li>・双方に義務がある。</li></ul>

# 企画と作品選定のプロセス

年 月 日	主な出来事
2018年 5月10日 8月23日 12月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術監督がキュレーター会議で、「表現の不自由展」に関して初めて提案をする。</li> <li>・ キュレーター会議で、永田氏への正式な声かけが決定する。</li> <li>・ 芸術監督から永田氏へ連絡を取る。</li> </ul>
2019年 1月17日  2月4日 4月4日 4月以降  4月25日 5月8日 6月4日  6月17日 6月23日 6月下旬  7月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術監督が、キュレーター会議で、「極力（不自由展実行委員会が行う）キュレーションに介入しないようにしたい」と発言。</li> <li>・ 芸術監督が、不自由展実行委員会の岡本氏と初めて会う。</li> <li>・ 芸術監督からキュレーターへ出品候補作品リストが共有される。</li> <li>・ 業務が増加することから仕事の割り振りを再検討し、作品の受け入れ等の具体的な実務を担当するアシスタント・キュレーター1名を決めた。</li> <li>・ この日以降、アシスタント・キュレーターが一部作家やギャラリーとの直接やり取りをする。</li> <li>・ 不自由展実行委員会、芸術監督、キュレーター、事務局で警備に関して協議を行った。</li> <li>・ 不自由展実行委員会、芸術監督、アシスタント・キュレーターが面談。出展リスト、展示内容、予算の方針を固めた。</li> <li>・ あいちトリエンナーレ実行委員会から不自由展実行委員会へ契約書案を送付。</li> <li>・ アシスタント・キュレーターと県立美術館学芸員が作品の集荷を始める。</li> <li>・ 不自由展実行委員会が執筆したキャプションパネルに掲出する解説テキストを、翻訳するための事務手続きや、パネルにするための造作の手続きを、アシスタント・キュレーターが行った。</li> <li>・ 契約書に係る協議を終了。（7月1日付で締結）</li> </ul>

## 「表現の不自由展・その後」の作家と作品キュレーション体制



### これまでのヒアリングでわかったこと

1. 芸術監督と不自由展実行委員会で作品を選定。
2. 大浦氏の新作映像作品の存在は、直前まで事務局にもキュレーターチームにも知らされていなかった。
3. 企画段階から、キュレーターチームの参画はほとんどなかった。
4. 不自由展には、担当キュレーターはあてられなかったため、専門キュレーターによるキュレーションはなされなかった。
5. 芸術監督は自分で推した3人の作家と直接準備のためのやりとりをしていた。
6. 不自由展実行委員会と作家の間の取り決め連絡等は、必ずしも円滑ではなかったと思われる。(作家等へのインタビューによる)

## 表現の不自由展出品作品と各人の作業分担状況

作品名	作品の性格*			作家	担当者	
	(1)2015出品	(2)その後	(3)その他		(作家への出品依頼)	(作品解説)
遠近を抱えて(4点組で出品、2点は未陳)	○			大浦信行	小倉 利丸	小倉 利丸
遠近を抱えて Part II (映像)			○	大浦信行	小倉 利丸	—
空気#1		○		小泉明郎	津田 大介	アライ=ヒロユキ
焼かれるべき絵			○	嶋田美子	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
焼かれるべき絵:焼いたもの			○	嶋田美子	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
重重—中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち	○			安世鴻	岡本 有佳	岡本 有佳
平和の少女像(ミニチュア)	○			キム・ソギョン/キム・ウンソン	岡本 有佳	岡本 有佳
平和の少女像	○			キム・ソギョン/キム・ウンソン	岡本 有佳	岡本 有佳
群馬県朝鮮人強制連行追悼碑		○		白川昌生	津田 大介	アライ=ヒロユキ
償わなければならないこと		○		趙延修(チョウ・ヨンス)	岡本 有佳	岡本 有佳
暗黒舞踏派ガルメラ商会			○	横尾忠則	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
気合い100連発			○	Chim↑Pom	津田 大介	Chim↑Pom
耐え難き気合い100連発			○	Chim↑Pom	津田 大介	Chim↑Pom
時代(とき)の肖像—絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳—			○	中垣克久	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
マネキンフラッシュモブ		○		マネキンフラッシュモブ	永田 浩三	永田 浩三
福島サウンドスケープ	○			永幡幸司	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
落米の恐れあり		○		岡本光博	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
9条俳句	○			作者非公開	永田 浩三	永田 浩三
Tami Fujie 1986 work			○	藤江民	小倉 利丸	小倉 利丸
アルバイト先の香港式中華料理屋の社長から『オレ、中国のもの食わないから。』と言われて頂いた、厨房で働く香港出身のKさんからのお土産のお菓子		○		大橋藍	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ
ラッピング電車の第五号案「ターザン」など			○	横尾忠則	アライ=ヒロユキ	アライ=ヒロユキ

\* (1)2015年の「表現の不自由展」に出品されたもの

(2)2015年の「表現の不自由展」以降に公立美術館などで展示不許可になった作品

(3)上記の二つのカテゴリーに含まれないもの

# キム・ツギョン、キム・ウンソン作『平和の少女像／平和の少女像ミニチュア』の展示に至るまでの経緯・概要

2019年	4月	5月	6月	7月	8月
作家					
不自由展 実行委員会		5/8 会場の下見 警備の打合せ		少女像展示をするという 強い意向	少女像と写真撮影はセッ トで、不可なら不自由展 全体を取り止める意向
芸術監督	4/4 不自由展の出品候補作品リス トをキュレーターチームと共有			6/20 不自由展実行委と協議す ると返答	不自由展実行委の決意 が固いことを伝える
担当学芸員	4/11 ・キュレーターチームは実物で なくパネル展示で成り立つと の意見 ・しかし、展示内容の選定権限 責任主体は不自由展実行委 員会であることを確認 ・キュレーターチームで展示の 内容を共有		6/4 作品リストができる		
トリエンナーレ 推進室長			6/12 少女像を含む、不 自由展全体の展示 案を提示	7/8 協議結果を会長へ報 告	7/12 結果を会長へ報告
チーフキュレータ 事務局長 (センター長) 幹事長(部長)					
運営会議 委員(局長)	4/18 芸術監督が少女像の実物が 出品予定であることを報告				
会長(知事)			6/20 会長から芸術監督に少女 像はやめてくれないか、実 物ではなくパネルにならない か、と要請	7/11 事務局経由で、少女像 展示について改めて考 え直すよう指示	7/12 結果の報告を受ける

# 大浦信行作『遠近を抱えて Part II（新作映像）』の展示に至るまでの経緯・概要

2019年	4月	5月		6月	7月	8月
作家(大浦氏)			5/21 コンセプトへの疑念から辞退の申し出		版画、DVD送付	7/29 会場確認
不自由展 実行委員会			小倉氏が、新作映像は「検閲」というコンセプトに合わないとの意見を作家に伝える	5/27 作家・不自由展実行委・芸術監督でミーティング。出品を合意。		8/2 中止の連絡
芸術監督	4/8 ニコニコ動画の東浩紀氏との対談で映像の存在に言及		5/24 DVD受領			
担当学芸員		5/8 アシスタントキュレーターが、新作映像を制作し、出品したいとの意向があるという情報を入手			6/12 版画、DVD受領	7/12 映像チェック 7/29 展示作業
トリエンナーレ 推進室長						7/30 映像内容確認
チーフキュレーター						
事務局長 (センター長)						
幹事長(部長)						
運営会議委員(局長)						
会長(知事)						8/4 問題とされている一部画面を確認



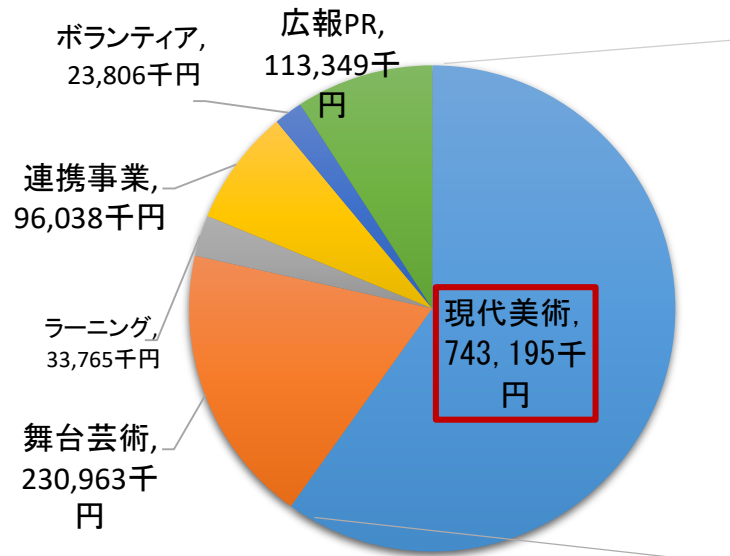
# 写真・SNS写真投稿禁止要請を巡る経緯・概要

2019年	4月	5月	6月	7月			8月		
作家						7/28 Chim↑Pomが「SNS投稿不可」の条件を飲めないとの連絡	7/30 Chim↑Pomのメンバーが「SNS推奨」のマークをキャプションに描く	7/31 「SNS推奨」のマークを見たキム夫妻、安世鴻が同様に「SNS推奨」のマークを添付	8/2 Chim↑Pom、キム夫妻、安世鴻が「SNS推奨」マークを取り下げる
不自由展 実行委員会				少女像展示と写真撮影はセットとの反論	7/19 3者連名による「SNS写真投稿禁止」合意				
芸術監督			6/20 不自由展実行委と協議すると返答	協議結果を受けて、SNSへの掲載禁止で対処する意向		7/20頃 芸術監督名で「写真撮影は可能、ただしSNS写真投稿禁止」の要望書	7/30 芸術監督と作家との協議を経て作家発のアクションとしてなら可との結論		
担当学芸員					7/17 会長指示を伝える		7/28 Chim↑Pomから連絡		
トリエンナーレ 推進室長				7/8 協議結果を会長へ報告					8/2 「SNS推奨」マーク 取下げの依頼
チーフキュレータ									
事務局長 (センター長)									
幹事長(部長)									
運営会議委員 (局長)									
会長(知事)			6/20 少女像のパネル化と写真撮影の禁止を要請	7/11 写真・SNS写真投稿禁止を再度協議するよう指示	7/19 写真撮影は禁止できないがSNSの写真投稿禁止は3者連名で掲示を了承				

# あいちトリエンナーレ2019全体に「表現の不自由展・その後」の展示が占める割合（事業費）

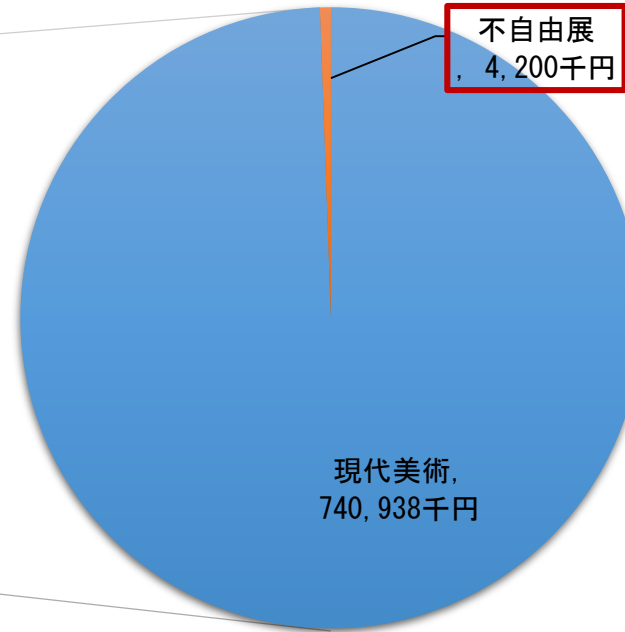
$$\frac{\text{現代美術展 (743,195千円)}}{\text{総事業費 (1,241,116千円)}} = 59.9\%$$

$$\frac{\text{「表現の不自由展・その後」の展示 (4,200千円)}}{\text{現代美術展 (743,195千円)}} = 0.57\%$$



- 現代美術
- 舞台芸術
- ラーニング
- 連携事業
- ボランティア
- 広報PR

100% = 総事業費 1,241,116千円



- 現代美術
- 不自由展

100% = 現代美術展 743,195千円

$$\frac{\text{不自由展 (4,200千円)}}{\text{総事業費 (1,241,116千円)}} = 0.3\%$$

※なお、国際現代美術展全体 (20,023㎡※) に「表現の不自由展・その後」の展示が占める展示面積の割合は0.83%

※展示面積積算：愛知県芸術文化センター、名古屋市美術館、四間道・円頓寺（メゾンなごの808 1F・2F、那古野2丁目長屋、幸円ビル、円頓寺駐車場、円頓寺銀座街店舗跡、商店街アーケード、なごのステーション、那古野一丁目長屋、）、豊田市美術館、豊田まちなか（豊田市駅下、旧どさんこラーメン、旧薬局、旧若松田、旧東部観光、シティプラザ、外部壁画、新とよパーク、喜楽亭、豊田市民ギャラリー、豊田東高プール）

## 「表現の不自由展・その後」の事業費の内訳

・ 表現の不自由展・その後実行委員会への 作品選定・制作・展示業務委託費	約 220万
・ 展示ディスプレイ費	約 80万
・ 輸送費	約 70万
・ 事務的経費（作家打合せ旅費）	約 40万
<hr/>	
・ 合計	<u>約 420万</u>

※ただし、上記の事業費には、会場使用料、広報PR費等の会期終了後に精算する共通経費は含まれていない。

※この事業はすべて、民間からの協賛金を充当する予定。

## 方針転換しえたポイント

あいちトリエンナーレ 実行委員会側の要請	<u>①少女像の展示</u>  パネル展示に代える	<u>②写真撮影</u>  禁止	<u>③SNSによる写真投稿の禁止</u>  SNSによる写真投稿の禁止の ステッカーを入口に貼る
発案者	チーフキュレーター（4月11日） 会長（6月20日）	会長（6月20日）	会長（7月11日）
提案／交渉者	芸術監督	芸術監督	芸術監督
不自由展 実行委員会	拒否	拒否	容認 （但し後に一部の作家が拒否）

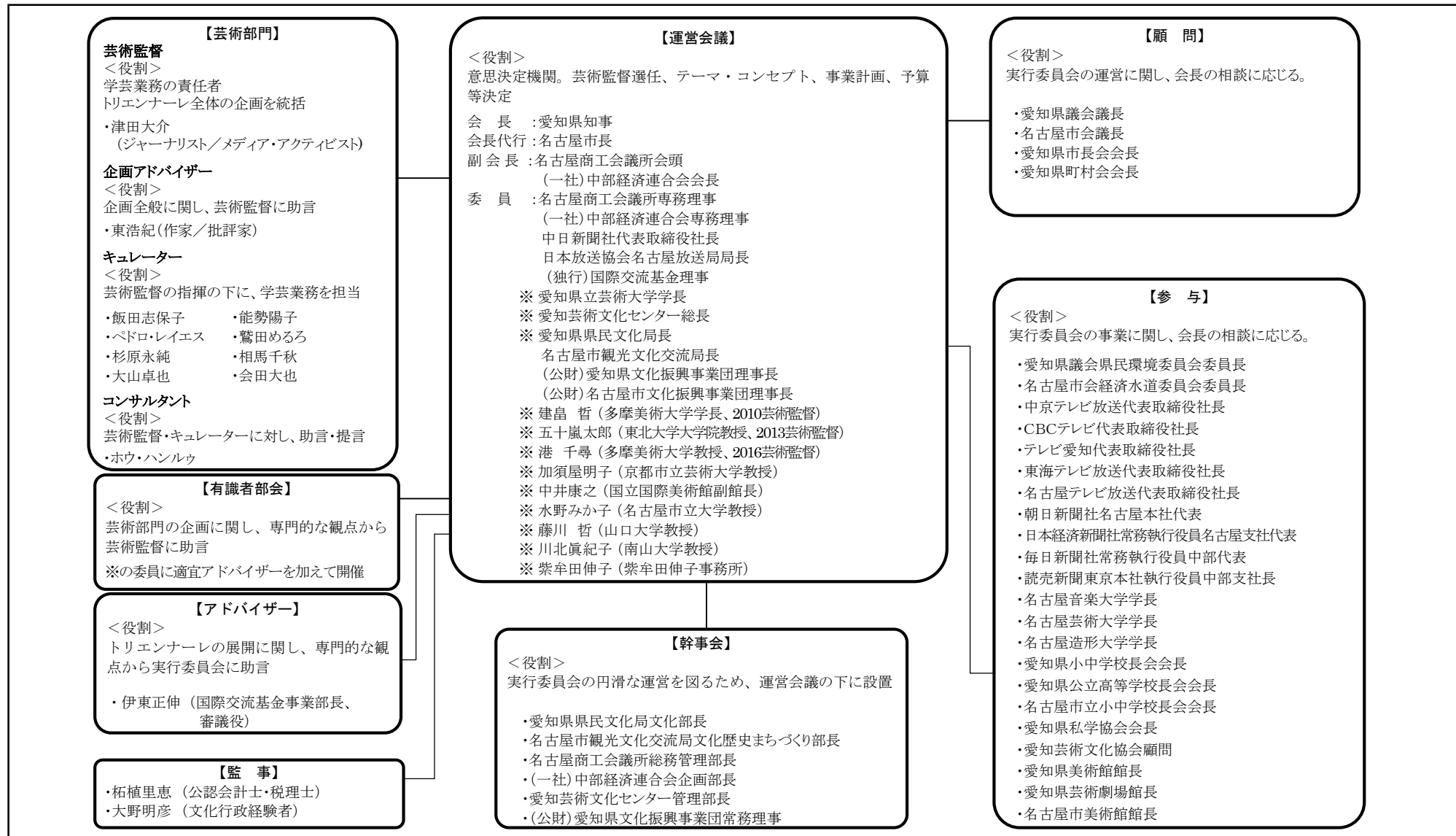
（注） 6月23日には作品の移送が開始されていた。

## 「キュレーション」とは

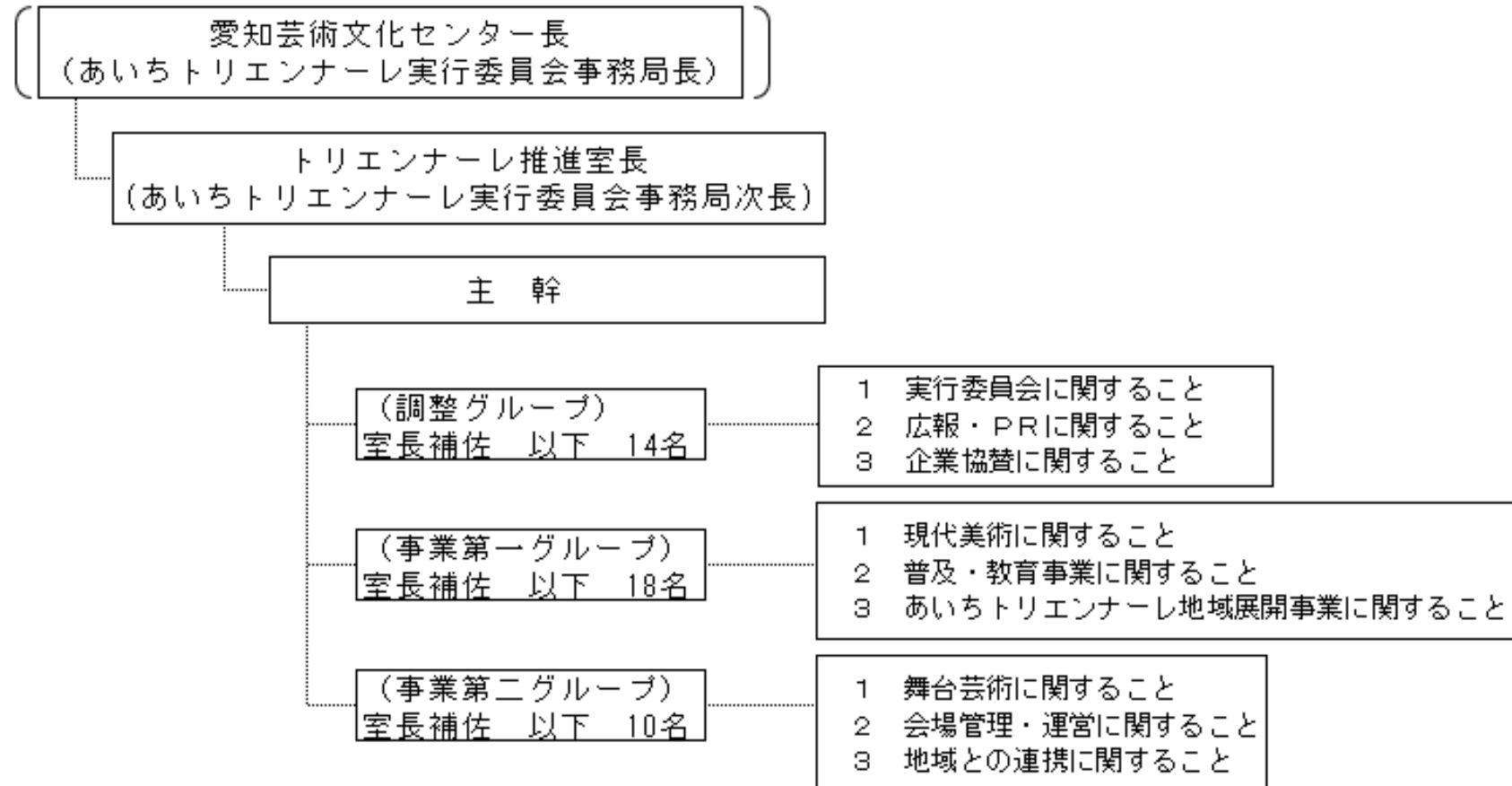
- 視覚芸術を解釈し、芸術を再度プレゼンテーションする
- 展覧会やプロジェクト企画の実現を通して、鑑賞者と作品を媒介する
- 作品と人を出会わせ、作品についての理解を促す
- 展覧会やプロジェクトなどの実践を通して批評や思想の提案を行う
- 巧みなテーマ立てや作品の選択、ディスプレイ、場の設定で、鑑賞者を誘惑し、心身ともに鑑賞体験、参加体験に没入させる
- 観客や批評界からのフィードバックをもとに、新たな芸術表現を次々と歴史の通時的な軸の中に組み込み、文脈化していく

# あいちトリエンナーレ実行委員会 組織図

## あいちトリエンナーレ実行委員会における芸術監督とトリエンナーレ推進室の位置付けが不明



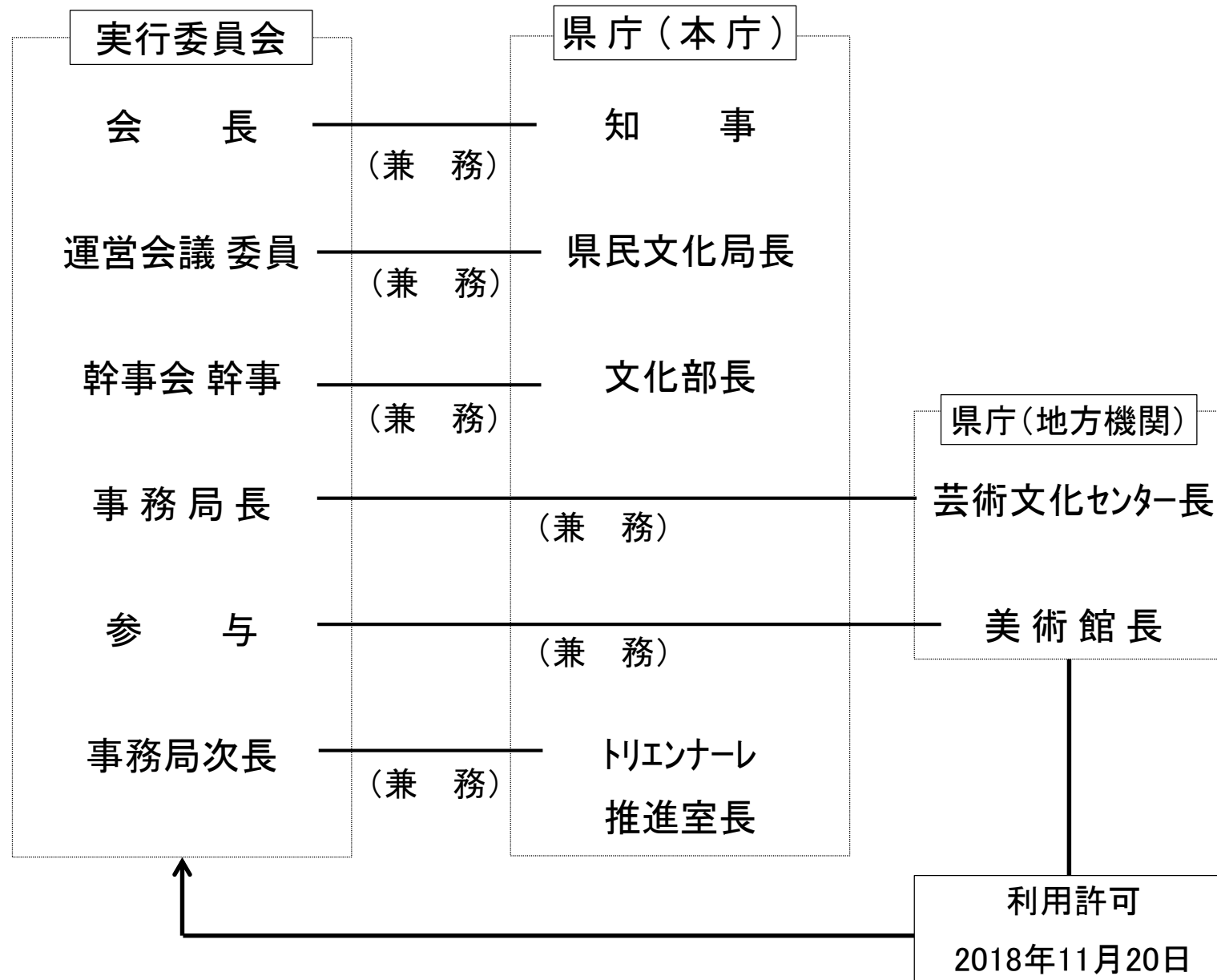
## 愛知県 文化芸術課 トリエンナーレ推進室 組織図



※産休代替、兼務職員等を含む

参考：2019年度 愛知県 県民文化局 文化部 文化芸術課 トリエンナーレ推進室 組織図 (2019年7月16日現在)

# あいちトリエンナーレ実行委員会と県庁の重なりの問題





## 中止に至る主な経緯

8月1日(木) 午後11時頃	芸術監督、あいちトリエンナーレ実行委員会、アシスタント・キュレーター、不自由展実行委員会等で、情報共有のための面談。現場の状況の共有、対応の協議。
8月2日(金) 午後10時頃	<p>会長と芸術監督が面談。会長から芸術監督へ次のとおり提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電凸、脅迫メールのみならず、ガソリン携行缶といったテロ予告のFAXもあった。このままでは、安心・安全が保てない。明日8月3日午前11時に記者会見して、明日で閉めましょう。非常に挑戦的な企画でもあったので、内覧会も入れれば4日間できただけでも十分ではないか。</li> <li>・については、この話を不自由展実行委員会側に至急伝えてもらえないか。</li> </ul>
8月2日(金) 午後11時半頃	芸術監督から、不自由展実行委員会に中止の提案について伝達(5人のうち、3人は対面、2人はスカイプ)し、議論した結果、3日の状況を見てから再度中止の判断をしてほしいと会長へ申入れを行うこととした。
8月3日(土) 午前9時頃	会長と芸術監督が面談。芸術監督から、昨夜の議論を踏まえて、会長に対して中止の判断の再検討を申し入れ、午前11時からの記者会見を延期。(その際、あいちトリエンナーレを円滑に運営できる状況かを見て総合的に今後の対応を判断する必要があるため、芸術監督から会長に現場の状況を逐一報告することとした。)
8月3日(土) 午後3時半頃	会長と芸術監督が電話相談。8月3日中も電凸だけではなく、会場の混雑、抗議者の来場等が続き、このままでは安全性が確保できず、あいちトリエンナーレを円滑に運営することが困難と判断し、展示を同日までとすることで合意した。
8月3日(土) 午後5時	会長が記者会見、引き続き芸術監督が記者会見。

# 脅迫メールの受信状況（愛知県庁・トリエンナーレ実行委員会事務局）

（2019.9.24現在）

受信日	時間	受信状況
8月5日（月）	AM4:21～AM5:13	県庁内120所属に267メール トリエンナーレ推進室 144メール 他119所属に 123メール
8月6日（火）	AM0:55～AM0:58	県庁内6所属に6メール
8月6日（火）	AM4:48～AM5:23	県庁内33所属に49メール
8月7日（水）	（なし）	
8月8日（木）	AM3:06～AM5:03	県庁内21所属に154メール 秘書課 133メール 他20所属に 21メール
8月9日（金）	AM5:47～AM6:24	県庁内33所属に294メール トリエンナーレ推進室 262メール 他32所属に 32メール
計		延べ213所属 770メール

（注1）トリエンナーレ実行委員会事務局のメールアドレスは愛知県トリエンナーレ推進室のメールアドレスを使用しているため、それぞれの受信数を区別できない。

（注2）所属とは、本庁各課、地方機関を意味する。

（注3）脅迫の主な内容

- ・県有施設やあいち県内の小中学校、高校、保育園、幼稚園にガソリンを散布して着火する。
- ・愛知県庁等にサリンとガソリンを撒き散らす。
- ・高性能な爆弾を仕掛けた。
- ・愛知県職員らを射殺する。

## 関連して発生した事件の捜査状況

(2019.9.24現在)

受信日	内容	状況
8月2日(金)	FAXによる脅迫	6日(火) 東警察署に威力業務妨害で被害届提出 7日(水) 容疑者逮捕 28日(水) 名古屋地方裁判所へ公判請求起訴
8月5日(月) ～9日(金)	メールによる脅迫	14日(水) 東警察署に威力業務妨害で被害届提出 東警察署で捜査中(9月24日現在) 海外のサーバーを經由していることが判明
8月7日(水)	芸文センター内で水まき	現行犯逮捕 23日(金)に略式起訴 罰金20万円
8月12日(月)	県庁、芸文センター周辺で ビラ掲示	中警察署・東警察署に通報 中警察署・東警察署で合同捜査中(9月24日現在)
9月22日(日)	四間道・円頓寺会場周辺で ビラ掲示	西警察署に通報 西警察署で捜査中(9月24日現在)

# 「表現の不自由展・その後」出展作家の意見表明

(2019. 9. 24現在)

日付	作家名	内容(要旨)
2019年8月4日	白川 昌生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「『不都合なものはだめ』と悪しき前例を作った。」 (2019年8月4日 中日新聞 朝刊)</li> </ul>
2019年8月4日	中垣 克久	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「やるなら主催者は堂々とやるべきだった。作家抜きでの中止決定は間違い。」 (2019年8月4日 中日新聞 朝刊)</li> </ul>
2019年8月7日	大浦 信行	<p>ステートメント発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術監督から、出品作家への事前の説明がないまま突然の中止に至ったことは、到底納得できない。</li> <li>・ 「表現の自由」をないがしろにするものであり、そこに深い議論がされたとは思えない。</li> <li>・ 「表現の不自由展・その後」の即時開催を強く要望する。</li> </ul>
2019年8月10日	キム・ソギョン、 キム・ウンソン	<p>ステートメント発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「表現の不自由展・その後」を観る権利、展示する権利を奪わないでほしい。</li> </ul>
2019年8月15日	安 世鴻	<p>ステートメント発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示場の閉鎖は表現の自由をふさぐ壁である。</li> <li>・ 展示中止の報道を流すまで、展示中止についての話し合いも連絡も受けていない。</li> <li>・ 「表現の不自由展・その後」の中止を撤回し、展示を再開することを強く求める。</li> </ul>

(注) 2019年9月24日現在

# 出展作家88名による声明

## アーティスト・ステートメント

### あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」の展示セクションの閉鎖について

私たちは以下に署名する、あいちトリエンナーレ2019に世界各地から参加するアーティストたちです。ここに日本各地の美術館から撤去されるなどした作品を集めた『表現の不自由展・その後』の展示セクションの閉鎖についての考えを述べたいと思います。

津田大介芸術監督はあいちトリエンナーレ2019のコンセプトとして「情の時代」をテーマとして選びました。そこにはこのように書かれています。

「現在、世界は共通の悩みを抱えている。テロの頻発、国内労働者の雇用削減、治安や生活苦への不安。欧米では難民や移民への忌避感がかつてないほどに高まり、2016年にはイギリスがEUからの離脱を決定。アメリカでは自国第一政策を前面に掲げるトランプ大統領が選出され、ここ日本でも近年は排外主義を隠さない言説の勢いが増している。源泉にあるのは不安だ。先行きがわからないという不安。安全が脅かされ、危険に晒されるのではないのかという不安。」(津田大介『情の時代』コンセプト)

私たちの多くは、現在、日本で噴出する感情のうねりを前に、不安を抱えています。私たちが参加する展覧会への政治介入が、そして脅迫さえもが—それがたとえひとつの作品に対してであったとしても、ひとつのコーナーに対してであったとしても—行われることに深い憂慮を感じています。7月18日に起きた京都アニメーション放火事件を想起させるようなガソリンを使ったテロまがいの予告や、脅迫と受け取れる多くの電話やメールが関係者に寄せられていた事実を私たちは知っています。開催期間中、私たちの作品を鑑賞する人びとに危害が及ぶ可能性を、私たちは憂い、そのテロ予告と脅迫に強く抗議します。

私たちの作品を見守る関係者、そして観客の心身の安全が確保されることは絶対の条件になります。その上で『表現の不自由展・その後』の展示は継続されるべきであったと考えます。人びとに開かれた、公共の場であるはずの展覧会の展示が閉鎖されてしまうことは、それらの作品を見る機会を人びとから奪い、活発な議論を閉ざすことであり、作品を前に抱く怒りや悲しみの感情を含めて多様な受け取られ方が失われてしまうことです。一部の政治家による、展示や上映、公演への暴力的な介入、そして緊急対応としての閉鎖へと追い込んでいくような脅迫と恫喝に、私たちは強く反対し抗議します。

私たちは抑圧と分断ではなく、連帯のためにさまざまな手法を駆使し、地理的・政治的な信条の隔たりを越えて、自由に思考するための可能性に賭け、芸術実践を行ってきました。私たちアーティストは、不透明な状況の中で工夫し、立体制作によって、テキストによって、絵画制作によって、パフォーマンスによって、演奏によって、映像によって、メディア・テクノロジーによって、協働によって、サイコマジックによって、迂回路を探すことによって、たとえ暫定的であったとしても、それらさまざまな方法論によって、人間の抱く愛情や悲しみ、怒りや思いやり、時に殺意すらも想像力に転回させうる場所を芸術祭の中に作ろうとしてきました。

私たちが求めるのは暴力とは真逆の、時間のかかる読解と地道な理解への道筋です。個々の意見や立場の違いを尊重し、すべての人びとに開かれた議論と、その実現のための芸術祭です。私たちは、ここに、政治的圧力や脅迫から自由である芸術祭の回復と継続、安全が担保された上での自由闊達な議論の場が開かれることを求めます。私たちは連帯し、共に考え、新たな答えを導き出すことを諦めません。

# 展示の中止等を表明している不自由展以外の出展作家

(2019. 9. 24現在)

会場	アーティスト名	出身地	備考
愛知芸術文化センター	タニア・ブルゲラ	キューバ	展示室を閉鎖しステートメントを掲出
	ピア・カミル	メキシコ	音楽を停止し、幕が一部捲り上げられ、ステートメントを掲出
	レジーナ・ホセ・ガリンド	グアテマラ	映像作品の上映が中止、撮影時に使用した小道具がちりばめられる
	クラウディア・マルティネス・ガライ	ペルー	照明が落とされ、映像作品の上映が中止、ステートメントを掲出
	ドラ・ガルシア	スペイン	ポスター（作品）の上にステートメントを掲出
	イヌ・ミヌク	韓国	展示室を閉鎖しステートメントを掲出
	パク・チャンキョン	韓国	展示室を閉鎖しステートメントを掲出
	ハビエル・デジェス	ベネズエラ	展示室を閉鎖しステートメントを掲出
	田中功起	日本	展示の再設定
	キャンディス・ブレイツ	南アフリカ	展示室を閉鎖しステートメントを掲出。ただし、土日祝は、これまで通り展示を行う。
	CIR（調査報道センター）	米国	展示室を閉鎖（展示の辞退）
名古屋市美術館	ドラ・ガルシア	スペイン	ポスター（作品）の上にステートメントを掲出
	モニカ・メイヤー	メキシコ	《The Clothesline》で来場者から寄せられた回答が取り外され、破られた未記入のカードが床に散りばめられる。ロープには、ステートメントが掲出され、《沈黙のClothesline》に変わる
豊田市美術館	レニエール・レイバ・ノボ	キューバ	絵画を新聞で、彫刻の一部をゴミ袋で覆い、ステートメントを掲出

※上記のほか、藤井光（日本）が9月22日に展示の中止を表明したが、具体的な対応についてはトリエンナーレ実行委員会と協議中。

# 中止に反対する国内外のアーティスト・メディア・各種団体からの抗議の状況

アーティスト・芸術業界	メディア	各種団体
<p>あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト 88名 日本美術会 日本ペンクラブ協会 日本劇作家協会 美術評論家連盟 (AICA JAPAN) CIMAM (国際美術館会議) 美術家井口氏 (Change.orgによる署名の提出) 関西美術家 平和会議 第68回関西平和美術展実行委員会 美術集団8月運営委員会 NPO法人Art-Set O (アートセットゼロ) アーティスト・ギルド 引込線2019実行委員会 新制作協会有志</p>	<p>日本マスコミ文化情報労組会議 日本イメージ・ジャーナリスト協会 (JVJA) 日本ジャーナリスト会議・東海</p>	<p>愛知県弁護士会 愛知県保険医協会 「表現の不自由展 その後」の再開をもとめる 愛知県民の会 日本共産党愛知県委員会 日本国民救援会天白支部 再開をもとめる愛知県民の会 始め174団体による共同要請 (9/9) 自由法曹団愛知支部 新日本婦人の会中央本部</p> <hr/> <p>東京弁護士会 公益法人財団YWCA 日本軍「慰安婦」問題解決問題行動 アムネスティ・インターナショナル日本 アクティブ・ミュージアム「わたちの戦争と平和資料館」 暮らしと法律を結ぶハウネット 埼玉アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 常任理事会 日本バプテスト連盟理事会 表現の自由を市民の手に全国ネットワーク 京都府宇治市「平和の集いin宇治」開催実行委員会 「横浜事件と言論の不自由展」実行委員会 CWJC (Comfort Women Justice Coalition)</p>

# 海外作家による抗議声明 (ARTnews掲載)

IN DEFENSE OF FREEDOM OF EXPRESSION

August 12, 2019

We, the undersigned artists participating in the Aichi Triennale (2019), condemn the decision to close a full section of the exhibition as an unacceptable act of censorship. The section titled “After Freedom of Expression?”, a special project of the Aichi Triennale, was closed indefinitely to the public on August 3rd due to political pressure from the State as well as pressure from anonymous sources threatening to take violent and terrorist actions unless the works in question were removed from the exhibition.

As we expressed publicly in a previous letter, we repudiate these threats inciting violence against the staff of the triennale and the censored art works. However, while we believe that all precautions must be taken to ensure the mental and physical safety of the exhibition staff and the visitors of the Triennale, we insist that “After Freedom of Expression?” should be opened and remain on view until the scheduled closing of the exhibition.

The main target of the attack in this case is the work “Statue of a Girl of Peace”, by Kim Seo-kyung and Kim Eun-sung: a sculpture that attempts to repair historical memory focusing on Japan’s military sexual slavery (euphemistically called “comfort women”) a historical issue that is continuously repressed in Japan. We consider it an ethical obligation to stand by the exhibiting artists voices and their work being exhibited. Freedom of expression is an unalienable right that needs to be defended independently of any context.

The attacks on freedom include: (1) Nagoya mayor Takashi Kawamura’s unfortunate comments calling for the permanent closure of “After Freedom of Expression?”; (2) a statement made by Chief Cabinet Secretary, Yoshihide Suga, threatening to cut off future funding to the Triennale through the national Agency for Cultural Affairs; (3) numerous anonymous calls harassing the exhibition staff; (4) a fax threatening terrorist action unless the section be closed.

We believe that the Aichi Triennale organizers’ decision to surrender to irrational threats and political demands violates freedom of expression and we question their decision to close the section “After Freedom of Expression?” without previously discussing it with the participating artists, the other curators and the organizers of the special exhibition. We fundamentally disagree that this is an issue of “risk management” and not one of censorship, a fact that has been denounced publicly by Amnesty International Japan, AICA Japan, Pen international as well as local and international press.

As a cultural institution, it is the Aichi Triennale’s responsibility to stand by the rights of its exhibiting artists and to protect freedom of expression. We understand that it is not an easy decision to make when people’s lives and security are at stake. But as a public institution, it is also its responsibility to work in collaboration with the corresponding authorities to provide protection and security for its staff, visiting public and anyone involved in the exhibition. It is the authority’s responsibility to undertake a serious and formal investigation as would be standard in the case of any terrorist threat. All these measures should have been taken into account before closing down a section of the exhibition.

In no way do we want to implicate the staff of the Aichi Triennale and its exhibition spaces with whom we have had a mutually supportive and positive relationship. We thank them for their hard work and stand by them through this difficult time. However, more than a week has passed since “After Freedom of Expression?” was censored. During this time, the organizers have been compliant in organizing an open discussion with the artists and we have insisted on the importance of reopening the exhibition. Also, at least two people have been detained in connection to the terrorist threats. However, we have not been given any clarity as to whether the censored section will be reopened.

Therefore, as a public gesture of solidarity with the censored artists, we demand that the organizers temporarily suspend the exhibition of our artworks in the Triennale while “After Freedom of Expression?” remains closed to the public.

Through this action we sincerely hope that the organizers of the Aichi Triennale will re-open the section “After Freedom of Expression?” and continue with their valuable work without thwarting freedom of expression by giving way to political intervention and violence.

Freedom of expression matters.



# 今後の日本への作品出品をボイコットする動き

- ・「展示室が閉じたままだと、次回以降のあいちトリエンナーレに、海外アーティストが参加しないということが起こりえる。」（海外キュレーター・アーティスト）
- ・「アーティスト集団Chim↑Pomリーダー卯城竜太さんは、「不自由展」実行委員会と津田大介芸術監督、（あいちトリエンナーレ実行委員会の会長でもある）大村秀章・愛知県知事との交渉がスムーズに行われていないことを指摘。「この三者で話し合いがもたれることが、まずは必要」としたうえで、こう述べた。」  
「進展がなければ、もっと厳しい要求、例えば作品のボイコットというのも、アーティストの権利だと思う。ただし、その前にまだいろんなことができると思っている。」  
（Yahoo news「江川紹子氏 執筆」）  
<https://news.yahoo.co.jp/byline/egawashoko/20190911-00142234/>
- ・「理由にかかわらず、海外のアーティストたちは、中止を検閲とみなす。展示室が閉じた状態のまま閉会すると、次回以降のあいちトリエンナーレはもちろんのこと、ほかの国内の芸術祭や国内の国公立美術館での現代美術の活動に影響がでるかもしれない。」  
（国内キュレーター）

# 海外アーティストの反発

## 海外アーティストの抗議

### ○ 展示作品の出品停止等 [2019.9.24現在]

合計13作家(全体<sup>(※1)</sup>のうち20%)

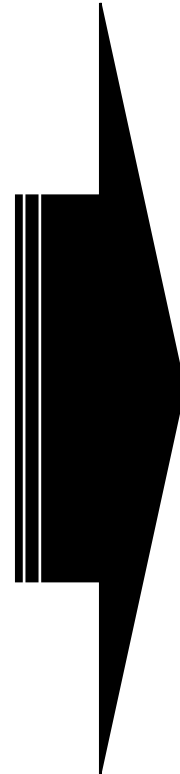
#### 【停止等の内訳】

- ・展示室の閉鎖 5人+1団体
- ・展示内容の変更・再設定 7人(※2)

※1 国際現代美術展は計66作家  
※2 日本人作家1人を含む。

### ○ 抗議声明 [2019.8.12現在]

米国の美術雑誌「ARTnews」のウェブサイト  
に海外作家11人、外国人キュレーター1人  
が一時的な停止を決めた公開書簡を掲載



## 反発が意味すること

- アーティストは、本国で弾圧、検閲を受けており、日本で起きた本件に出展したアーティストに共感
- 電凸等の被害、安全面からの中止でも広義における「検閲」と解し反発
- このままでは、次回のあいちトリエンナーレや横浜等の各地で開催される芸術祭、さらには、国公立美術館への出展拒否につながりかねない。(特に名古屋、大阪、神奈川等の国公立美術館)

# 今回の事案が示唆する美術館やメディア等へのリスク

		内なる検閲	伝統的な検閲
検閲する側	主体	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 同調圧力や不利益の示唆</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 政府</li></ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 無意識のうちの自主規制 (内なる検閲 (Internal Censorship))</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ あからさまな事前検閲</li></ul>
糾弾する側	主体	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 無数の相手</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 政治的団体</li></ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ メールや電話など目に見えない、かつ、 凄惨な抗議</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 街宣車や暴力行為による現地での妨害行為</li></ul>

問題ないはずだが  
悩ましい（集中すると圧  
力に）

⑨常識の範囲内での抗  
議（電話・FAX・メール）

⑧電凸・脅迫

⑦市民のネット上での  
批判

⑥政治家の批判

相互影響

あいちトリエンナーレ実行委員会

運営会議  
（会長 [知事]）  
〔運営の重要事項の決定〕

⑤自律性の尊重

⑤危機管理のための例外的介入

芸術部門（芸術監督・キュレーター）  
④専門的な観点から自律的判断  
キュレーションの自律性

④社会に向け  
た説明責任

⑥自律的判断  
への介入の恐れ

④説明責任を負う前提として  
のがバナンス問題

⑤中止決定の適否、③中止権限の問題

観客としての市民

①知る権利  
（ただし、訴訟は困難）

③契約関係

③キュレーション・協議の関係  
（その上で契約関係に）

「表現の不自由展」実  
行委員会

③直接には表現の自由の問題にはならない  
ただし、恣意的な撤去・中止は  
不法行為になりうる（船橋市立図書館事件）

③直接の法的関係なし

アーティスト

アーティスト

アーティスト

①理念としての表現の自由  
（これは本件全体に関わる）

②展示内容が表現の自由の範囲を  
超え、法令違反だったか？ → No

# 世界の芸術祭の現在 社会問題・政治的緊張を直視

ヴェネツィア・ビエンナーレ  
(イタリア 1895-)

国際美術展の老舗。ディレクターによる企画展と国別展示。近年、多様な世界観の紹介や、多文化主義的なアプローチが顕著。



『資本論』を読む連続パフォーマンス 2015

ドクメンタ  
(ドイツ 1955-)

歴史への反省をこめて芸術復権の場として出発。各回のテーマは近代の諸価値を再検討するもので、政治・社会・哲学的。



会場前に反グローバリストが集結 2012

光州ビエンナーレ  
(韓国 1995-)

1980年の光州民主化運動の精神を受け継ぎ、文化的価値を発信。記録・アーカイヴへの関心、キュレーションの多極化、コレクティブ志向が顕著。



ペドロ・レイエスの展示風景 2012

「展覧会はますます知的・文化的・社会的・政治的な調査と表現の手段となる」

(Jens Hoffmann, *Show Time : The 50 Most Influential Exhibitions of Contemporary Art*, New York, 2014.)

# 海外で問題となった事例

参考写真 1



Andres Serrano  
Madonna and Child II (1989)

Ines Doujak  
Not Dressed for Conquering (2015)



参考写真 2



Illma Gore  
Make America Great Again (2016)

参考写真 3

# 一般アンケート (Web) [実施期間：9/10-10/7]

送付先：あいちトリエンナーレのあり方検証委員会事務局

メールアドレス [triennale-kenshou@pref.aichi.lg.jp](mailto:triennale-kenshou@pref.aichi.lg.jp)

FAX 052-972-6075、052-961-1310

## あいちトリエンナーレ2019に関するアンケート

該当するものに、してください。

性別

男  女  その他  無回答

年齢

10代未満  10代  20代  30代  40代  50代  60代以上

お住まいの地域

名古屋市内  名古屋市以外の愛知県内  愛知県外(海外含む)

### I あいちトリエンナーレについてお尋ねします。

1 あなたは、今まであいちトリエンナーレに行ったことがありますか。  
行ったことがある方は、行った回数全てにしてください

第1回(2010年)  第2回(2013年)  第3回(2016年)  第4回(2019年)

2 あいちトリエンナーレ2019に行った方にお尋ねします。  
あいちトリエンナーレ2019全体について、どのような印象を持ちましたか

とても良い  良い  悪い  とても悪い  どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

### II あいちトリエンナーレ2019の国際現代美術展内の一企画「表現の不自由展・その後」についてお尋ねします

1 「表現の不自由展・その後」の展示を見ましたか (8/1~8/3の3日間、公開されていました)

見た  見ていない → IIIへ

↓

展示を見た方は、見た感想にしてください

とても良い  良い  悪い  とても悪い  どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

### III 「表現の不自由展・その後」の展示について、皆さまにお尋ねします

1 展示の趣旨について、どう思いますか

賛成  反対  どちらともいえない

【展示の趣旨】

(引用元 “あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」  
<https://aichitriennale.jp/artist/after-freedom-of-expression.html>”)

「表現の不自由展」は、日本における「言論と表現の自由」が脅かされているのではないかと強い危機意識から、組織的検閲や付度によって表現の機会を奪われてしまった作品を集め、2015年に開催された展覧会、「慰安婦」問題、天皇と戦争、植民地支配、憲法9条、政権批判など、近年公共の文化施設で「タブー」とされがちなテーマの作品が、当時いかんして「排除」されたのか、実際に展示不許可になった理由とともに展示した。今回は、「表現の不自由展」で扱った作品の「その後」に加え、2015年以降、新たに公立美術館などで展示不許可になった作品を、同様に不許可になった理由とともに展示する。

2 作品の選定について、どう思いますか

とても良い  良い  悪い  とても悪い  どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

3 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営の確保が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて、どう思いますか

中止は当然  中止はやむを得ない  中止すべきでなかった  分からない

4 今後の展示のあり方について、どう思いますか

再開したほうが良い  中止のままで良い  どちらともいえない

5 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について改善すべき点があれば御指摘ください

### IV 公立美術館の役割についてお尋ねします

あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものにしてください

絶対に必要  どちらかといえば必要  どちらかといえば不適切  適切ではない  どちらともいえない  分からない

### V 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について御意見があれば、御自由に記載してください

VI あなたは過去1年間にコンサートホール、劇場、映画館、美術館、博物館等で、どの分野の文化芸術を鑑賞されたことがありますか。あるもの全てにしてください

音楽  美術・写真  演劇  ダンス  映画  アニメ・漫画  
 歌舞伎などの古典芸能  落語や漫才などの話芸  歴史的な建物や遺跡  
 鑑賞したことがない  その他



## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>1. 展示に関するもの</p>	<p>○めったに見る機会のない作品を実際に見ることができた。日本での美術を取り巻く状況について知ることができた。</p> <p>○見に行ったのは、ちょうどコスプレの国際的催しがあった日。私のような高齢者にはコスプレなんて抵抗もあったが、参加者の皆さんが自由に楽しそうにしているのを見ると、なんかこちらも楽しくなってきた。もちろん人によって好き嫌いはあるであろうが、人々が自由に思うところを表現できる世界のなんと伸びやかなことか。改めて表現の自由というものの大切さを展覧会とコスプレを通して考えることができた。</p> <p>○「表現の不自由」にフォーカスする展示であれば良かった。エロ、グロ、政治色の強いもの（左右問わず）・・・それらを集めた展示であれば良いものになったであろう。しかし、今回は一方的な考え方を行えば大問題になることは初めから予想できたはず。実行委員会、事務局の見通しの甘さが露呈した結果になった。</p> <p>○ここだけは混雑していましたが、やはり係員の対応は丁寧でした。展示されている作品も考えさせられる内容で、見られて良かったです。これら作品が見られない世の中になってしまっていることにショックを覚えました。</p> <p>○表現の自由について考えるきっかけになった。時間をおいて、もう一度見てみたかった。作品の趣旨や過去に展示不許可になった理由などが、もうちょっと分かりやすい文章で記載されているとよかった。</p>	<p>○表現の不自由展は＝反日展示会と言う感想しか無く、大変驚きました。</p> <p>○芸術を履き違えた人間が選んだ自由偏向な展示でしかない！！良い点など無い！</p> <p>○あまりの酷さに反吐が出た。左翼のプロパガンダに過ぎないものを芸術とうそぶくとは、公費でこんなものを展示するとは許されることではない！そんなに見せたければ私費でやればよい！</p> <p>○国民の心の琴線をズタズタにする展示物は醜悪そのもの。芸術ではなく、明らかに反日プロパガンダである。</p> <p>○思っている以上に酷かった。日本人の気持ちを逆撫でするものばかりでとても不愉快。</p> <p>○芸術の名を騙った明確な半日プロパガンダ。日本人として到底容認出来るモノでは無い。</p> <p>○表現の自由にも制限はある。まして税金を投入したイベントは公金の不正投入である。</p> <p>○表現の自由を盾に偏った主義の人達が好き勝手しているだけの印象。あれを芸術ととらえたのなら今後トリエンナーレは開催しないでいただきたい。</p> <p>○実行委員会は作品を「アート」としてではなく、政治的プロパガンダとしか扱っていないのではないかと受け取れた。</p> <p>○朝鮮人の日本に対する間違った認識を正当化してはいけません。</p>

(注) 個人に対する誹謗中傷や差別的な発言のもの(2件)を除き全て掲載。また、個人名は役職名としてあります。



## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○政治的表現が取り上げられるのは世界的芸術祭の潮流としてごく当然なことである。また、扱われている作品のいくつかは自国批判としてとても強度があり、良作だった。</p> <p>○大変良い展示だと思った。社会の中で「表現活動」がはたす重要な役割をあらためて認識させられた。</p> <p>○今の社会が抱えている問題を象徴するような作品群に、改めて社会の矛盾や解決すべきことがあるのだということがよく分かった。</p> <p>○それぞれの作品はもともとコンセプトやテーマが異なるが、権力や社会の抑圧への姿勢が観れるものが多かった。とはいえ、その全ての作品に賛同するわけではないので、全部が自分にとって「いい作品」なわけではない。やはり攻撃的に見える展示ではあるので、もしトリエンナーレ全体がこうだったら好きになれないが、一つの展示としてみるには許容範囲だと思う。展示自体のテーマは面白いと思った。</p> <p>○「その後」とされていることで、色々な視点から議論ができるというコンセプトが良いと思った。</p> <p>○見ることを拒否された展示の内容が解ったから。日本で「慰安婦像」とされる作品が本当は「平和の少女像」であることを初めて知ったし、最近の報道では日本政府が決めた標題ではなく正しい標題で報道されるようになったことは嬉しい。警備を強化して早く再開して欲しい。</p>	<p>○表現の自由の名を借りた、単なる反日ヘイト。しかも、展示前からネットで「炎上を予想」していた非常に悪質な内容。</p> <p>○日本を貶める物を芸術などとは決して言わない。表現の自由という敬うべき憲法を悪用した。</p> <p>○反日プロパガンダ、天皇ヘイト、日本人ヘイトなど、見るに耐えない、反吐が出る！アンケートの作り方にも悪意がある！根本原因追究の意思が見られない！何故苦情がいっぱい来たのかについて調べよ！</p> <p>○不快でした。日本人へのヘイトだとか政治的思想が絡んでいるのではないかと考えてしまいます。先の逮捕者も出たり、炎上するのも当然かと思えますし、もし万が一テロが本当に起こって犠牲者等が出た場合は誰が責任をとるのだろう。また、何故これらの展示が事前に安全面を考慮し、自主規制又は説明等による周知が行われなかったのか疑問に思う次第です。</p> <p>○芸術を名乗れば何をやっても許されるという考え方が不愉快。特に政治プロパガンダを芸術と言ってはばからない精神を疑う。</p> <p>○一方的視点からの作品ばかり。慰安婦像を展示するのであれば、ライダイハンの像も並べて展示すべき。</p> <p>○平常な感覚を持つ日本人がこれだけ嫌悪感を感じる展示を公費使って開催はありえない。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○濃淡はあるが、全ての作品の表現・訴えに対して、共感・共鳴・理解、そして考える切っ掛けが得られた。</p> <p>○表現の自由について考えさせる意欲的な企画だったと思う。いわゆる少女像も実際に見て、作者の平和と人々の相互理解を望む気持ちが伝わった。</p> <p>○過去に展示を中止された各作品を実際に目の前で見る事ができました。展示を中止された理由が、合理と倫理の両方を欠いている事に驚き、深く考える事ができました。</p> <p>○こういう作品が見られたことはいい。平和の像についても、「どうしてこれが問題なんだろう」という方が多かったです。もっと多様な意見を言うことができるようにして欲しいです。3日以後、作者と語り合える場を作った作家もあるように聞きます。そういう場が持てるといいです。現代美術への鑑賞眼を多くの人々がもてるようになるのではないかな。</p> <p>○どれもまともな芸術作品だが、これらが展示できなくなる社会状況を考えさせる、日本社会に有用で重要な企画だった。</p> <p>○見ることができて、とても良かったです。深く考えさせられました。不快に感じるという人もいるのかもしれませんが、なぜ自分が不快に感じるのかを自問してみる必要があると思います。展示の内容は素晴らしかったのですが、展示の方法にもう少し工夫があっても良かったかもしれません。</p>	<p>○公金を使った反日本の政治活動であった。昭和天皇の写真を焼く行為は芸術でも表現の自由でもない。仮にこれを「表現の自由」というなら、私費でやるべきだし、両輪併記でバランスをとるべき。 ○「表現の自由」とは、本来は政治的党派性に左右されない人権であるが、反皇室、反日本の要素を多分に含む、政治的文脈で捉えられても仕方ない展示品に偏っていたこと。また展示品がかつて展示されなかった経緯の説明、次の問いの展示の趣旨にも現政権批判の意図が散見され、政治的に解釈されても仕方ない構成だった。</p> <p>○政治的プロパガンダであり、しかも表現の自由の範囲を超える非常識そのものである。</p> <p>○一言で言って品性下劣なヘイトスピーチと言うほかない。すべてではないが、少なくとも「遠近を抱えて」は悪質なヘイトスピーチである。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>2. 昭和天皇の肖像や特攻隊に関するもの</p>	<p>○見ることを拒否された展示の内容が解ったから。日本で「慰安婦像」とされる作品が、本当は「平和の少女像」であることを初めて知ったし、最近の報道では日本政府が決めた標題ではなく正しい標題で報道されるようになったことは嬉しい。警備を強化して早く再開して欲しい。</p> <p>○話題として扱われている天皇の肖像が燃えている映像作品の質は特別高かったとは思わないが、質の問題以外で（特にヘイトというような間違った認識で）非難を浴びるべきではない。</p> <p>○税金を使った展示会で日本国民の象徴である天皇陛下及び特攻隊員を侮辱した展示物があるのは適切ではない。天皇陛下がバーナーで焼かれる動画は、自分自身が焼かれ踏みつけられた気持ちになった。また、特攻隊の寄せ書きを使った展示物は戦争当時の兵隊が家族及び未来の子孫の為、日本を存続させる為に命を掛けて戦ったものであり、その行為を貶めることは許し難い。</p> <p>○昭和天皇の写真が燃える映像作品は見る者に考えさせる作品で、考えれば、それが単なる天皇への誹謗を意図したものではないことがわかる。刺激的な作品だった。</p>	<p>○あれを見て不快にならない日本人が信じられない。天皇陛下が焼かれて踏まれる、私の払った税金がこれに使われていると思うと悔しくて仕方なかった。過激すぎて人を激しく傷つけていますので、公的なお金を投入したイベントには極めて許しがたい展示である。検閲という言葉をしっかり理解して欲しい。</p> <p>○これは芸術ではありません。反日・反天皇政治活動です。良い点はありません。最悪です。昭和天皇のお写真も燃やし、その灰を踏みつける映像には、もう、言葉を失いました。愛知県はどうなってしまったのでしょうか？なぜこのような展示を認めたのでしょうか？愛知県民でいたくない気分です。</p> <p>○日本の象徴である天皇陛下を侮辱されて、私自身（妻も）、とても傷つきました。なぜ？私が払った税金を使って、私たちが傷つけられなくてはならないのでしょうか？是非、大村知事に説明いただきたい。加えて、さきの戦争で亡くなられた特攻隊の方々を侮辱した作品も到底、容認できません。これも是非、大村知事に何故？これらを展示したのか説明いただきたい。</p> <p>○公のイベントで陛下のご真影を燃やし、踏みつけるなど言語道断。また、戦死者を侮辱する物体にはひたすら嫌悪を覚える。せめて作品として作者が技巧を凝らし、心血を注いだ物ならば議論の余地もあろうが、あのような稚拙極まりないガキの落書きレベルの物体を公開するなど、人としての品格を疑わざるをえない。今回のイベントでは愛知県は勿論、日本の芸術の品位を疑う。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(2. つづき)</p>		<p>○昭和天皇の後真影を焼くという暴挙。許せるはずもありません。ポर्टレートが焼かれたにすぎない？そんなものは詭弁です。実際に御真影を焼いているじゃないですか。</p> <p>○特攻隊員を冒瀆し、昭和天皇を貶める行為は、日本人の行為ではない。津田と東を選択した大村知事に多大の責任が有る。</p> <p>○日本以外の世界中の国で・・・自国の国王や国に対する名誉・尊厳を毀損させる行為を国・州・市の主催後援でもって発表させる芸術展なるものは無い。ましてや、国と国でもってトラブル関係となってる相手国の作家が芸術の名のもとで自由の名の美名で行うことは・・・更なる問題を生じさせる。(日本は、愛知県は・・・それほど、おバカであってはいけない！)</p> <p>○昭和天皇への侮辱が酷く目に余るものばかりであった。また戦時英霊や米国、日本国自体を蔑む展示物には怒りの感情しか抱けませんでした。</p> <p>○天皇の御真影焼いて踏みつけるなど、悪意の塊。</p> <p>○主催者の一方的な判断で、不許可になったものを展示するという判断が、常軌を逸しています。特に天皇陛下個人、皇室への侮辱、特攻した英霊やアメリカへの侮辱ととられかねない物を展示するなど言語道断である。主催者は、自分や自分の家族が題材となり同じようなことをされたら、絶対に展示を許すはずがない。「組織的検閲や忖度」についても一方的な解釈である。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(2. つづき)</p>		<p>○自分たちの未来のために命を懸けて戦った先人を貶める作品ばかりで大変不快だった。天皇陛下の写真を焼き払う作品のどこに芸術性があるのか主催者の芸術監督と知事に問いただしたい。</p> <p>○昭和天皇の御真影をバーナーで燃やし、更に土足で踏みつける映像。これのどこが芸術なのか？作者に問いたい。貴方はヨーロッパでローマ法王の写真を燃やしたり、イスラム諸国でクルアンの教典を燃やす映像を展示できるのか？</p> <p>○日本の象徴である天皇が燃やされ、足蹴にされているモノが芸術とは日本国民を愚弄しているのか？国の為に散っていった特攻隊の寄せ書きに「間抜けな日本人の墓」とは、表現の自由でもなんでもありません。展示物は表現の不自由でもなんでもなく、常識に照らし合わせて展示すべきではないものです。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>3. キュレーションに関するもの</p>	<p>○問題点を掘り下げて、一部、細かな資料なども閲覧できるようになっていて、非常に勉強になった。</p> <p>○展示の内容は理解できたが、キュレーションが下手だなと思った。バランスが悪かった。</p> <p>○「その後」とされていることで、色々な視点から議論ができるというコンセプトが良いと思った。ただ、他の展示に比べて会場が狭かったのが残念。窮屈な感じであることも展示上の演出なのかもしれないが、もう少しゆとりのある展示の仕方で、一つ一つの作品をゆっくり見られるようにしてほしい。</p> <p>○問題点を掘り下げて、一部、細やかな資料なども閲覧できるようになっていて、非常に勉強になった。</p> <p>○他の展示に比べて会場が狭かったのが残念。窮屈な感じであることも展示上の演出なのかもしれないが、もう少しゆとりのある展示の仕方で、一つ一つの作品をゆっくり見られるようにしてほしい。</p> <p>○大浦さんの作品は、一部のみを見て誤解してしまうことがないように、奥の気合百連発の辺りや、伊藤ガビンさんの作品のようなスペースで映像を流すと良いと思った。</p>	<p>○改善点：展示会場の狭さ、作品コンセプトや制作意図、非展示となった理由の説明などを観覧者に理解させるための配布資料が会場になかった。</p> <p>○8月3日に拝見しました。入場規制をしていたにもかかわらず、部屋の中は人が多く、個々の作品をゆっくり鑑賞できる環境ではありませんでした。物理的な展示環境、芸術祭の運営という観点で、「悪い」と評価せざるを得ません。例えば、予約制にされてはどうでしょうか。</p> <p>○狙いは解らないでは無いが、キュレーションが無知。作品レベルとしては横尾さんを除いてはゴミにしか思えなかった。作家がアートと言えればアートなのかも知れないが、選定時にはじくべき。不自由展に関しては改善の余地は無い。</p> <p>○悪い点：不自由展のホームページはあいちトリエンナーレのメインサイトと切り離されており、入手しにくい情報となっている。(不自由展のリンク先もメインサイトに記載されていない。) 歴史・社会的圧力をテーマに扱っているにもかかわらず、展示会場には作品と関わる資料が少ないように思った。</p> <p>○偏った政治的プロパガンダであること以上に、芸術の域に昇華されていないことが問題。</p> <p>○誰が対象であれ、亡くなった方のお写真を焼き踏みつけにすること、戦争で犠牲になられた方々への侮辱は芸術ではありません。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
(3. つづき)		<p>○このような展示物が公開中止にされるということを知ることができた。但し、芸術祭でやる内容ではない。また、壁に貼ってあった年表が偏見に満ちていて酷い。</p> <p>○狙いは解らないでは無いが、キュレーションが無知。作品レベルとしては横尾さんを除いてはゴミにしか思えなかった。作家がアートと言えばアートなのかも知れないが、選定時にはじくべき。不自由展に関しては改善の余地はない。</p>

## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>4. 関係者への批判</p>		<p>○芸術監督の強い政治的な主張を感じました。これを芸術監督の私費で開催しているなら百歩譲って表現の自由だと容認できますが、公金が遣われているものに、半日色の強いもの。ましてや日本の象徴である天皇陛下を侮辱するようなものを展示したのが許せません。憲法第21条の前に、公金を使った表現を制限する12条があるのをご存知ですか？</p> <p>○これらの展示が、誰の指示で、誰の許可を得て展示されたのか、詳細を明らかにしてほしい。明らかに政治プロパガンダ。慰安婦像や昭和天皇を焼く展示は、どこの国でも許されるものではない。日本でなら何をやってもいいなどというのは、反天連の元NHKプロデューサーが委員会にいるからでしょうか。愛知県は展示内容を許可したことを謝罪し、関係者を処分すべき。</p> <p>○あいちトリエンナーレ2019において芸術監督の独断と暴走を放置したことは、重大な過失であると考えます。2. 芸術監督の独断と暴走を止められなかった他の開催者の職務に対する認識不足は深刻であると言わざるを得ません。3. 不明瞭な支出と不適切な選考があった場合の処分の不徹底も責任者に過失がある。</p> <p>○今回の展示に関わった方々は、全員辞職して下さい。無論知事まで含めてです。それくらいの反省の意思がないのでしたら、今後二度と開催しないで下さい。</p>



## 一般アンケート(Web)

	肯定的な意見	否定的な意見
(4. つづき)		<p>○今回無駄に使われた税金は、芸術監督と知事の2人に責任を持って支払ってもらい、穴埋めしていただきたい。</p> <p>○知事は、芸術監督さえ認めればあらゆる表現物を置くべきだと主張したが、正気を疑う発言だ。巷では、あらゆるヘイトスピーチ表現がまかり通っており、市民が抗議している事実を知らないのか。</p>

# 来場者アンケート〔実施期間：8/15-8/28〕

## みなさまの声をお聞かせください

あいちトリエンナーレ実行委員会

「あいちトリエンナーレ2019」にご来場頂きありがとうございます。今後のあいちトリエンナーレの運営やビジョン策定に活かすため、アンケートにご協力ください。

年齢：～10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代～

性別：無回答 | 女性 | 男性 | その他

住まい：愛知県内 | 愛知県以外の国内（ ） | 国外（ ）

1. あいちトリエンナーレに来場したのは何回目ですか？

- 初めて来た
- 過去2～3度、来たことがある
- 過去4回すべてに来たことがある
- 「あいちトリエンナーレ2019」に何度も足を運んでいる（ ）回

2. 「あいちトリエンナーレ2019」へ来場した動機を教えてください（複数回答可）

- A. 日当たりの作家が出品している [ ]
- B. 日当たりの作品があった [ ]
- C. コンセプトに興味を持った
- D. イベント／お祭りとして参加したかった
- E. 興味のあるジャンル（現代美術、パフォーマンスアート、映像、音楽）があった
- F. 話題になっているから
- G. その他 [ ]

3. 今回の「あいちトリエンナーレ2019」の中で印象的だった作品／公演／取り組み／出来事と、その理由について教えてください

4. これからの「あいちトリエンナーレ」に期待することを、ぜひお聞かせください

そのほか「あいちトリエンナーレ2019」へのご意見・ご要望は裏面に自由にご記入ください。  
ご協力ありがとうございました。

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>1. 展示に関するもの</p>	<p>○中止されている展示の再会を望みます。がんばってください。冷静さを欠いた人の大声を気にし過ぎないでいただきたいです。世界中の人々が応援している道義なので。</p> <p>○表現の不自由展を「やる」となった時点で、このようなことが起こることは想定内だったと思います。芸術監督が「表現の自由」を考える契機にするはずだったアートが、変な方向で取り上げられ、無関心な人々に「考える」を与えられていないことが非常に残念に思います。一体なんのためにスタッフや芸術監督が苦しめられ、何が議論されているのか、さっぱりわからない。モヤモヤしか生んでいない。絶望しかないよ、このままじゃ。</p> <p>○検閲への抗議として海外アーティストの作品が展示辞退されたこと。非常に残念。会場の「安全」は保証されるべきであり、こうした抗議の表明は残念に思った。作家らは来場者や職員が犠牲になる可能性も視野に入れるべきである。「テロに屈するな」とは、長らく平和を保ってきた日本(そのために築かれた文化的背景)を無視している。そのような強い反骨精神を市民レベルに求めるのは酷である。作家らにはもっと別の方法で抗議にあたってほしかった。</p> <p>○表現の不自由展の再開を希望しています。他の展示もどれもすばらしい。今のところ移民関係のテーマが目立ち興味深く思いました。</p>	<p>○これまでで一番つまらなかった。良い悪いにかかわらず、ジャーナリズム色が強すぎる。現代美術を純粋に楽しめるトリエンナーレをお願いします。</p> <p>○2回目の記入です。20日からまた展示取りやめの作品が増えました。フリーパスを購入してたくさん通って作品を鑑賞しようと思っている観客は置き去りです。こんなことでいいのでしょうか？金返せ！！8/18現在のトリエンナーレの状況①「表現の自由」も担保されていない芸術祭として世界へ広まる←あいちの恥！②案の定、韓国慰安婦団体に情報を切り取られプロパガンダに利用される。←こんなの予想できるだろ。③参加したアーティスト、協賛企業にも多大な迷惑を掛けることになっている。←イメージダウン④芸術監督、知事をはじめ「慰安婦像展示は知っていたけど止められなかった」と言い訳&amp;責任転嫁の応酬←どうでもええわ。今世界へと広まっている情報を早く精査せよ！！⑤3年後トリエンナーレ不開催(中止)の可能性大←どう責任を取るつもりなのか☆！！「表現の不自由展、その後」の開催にいたった経緯を(犯人探し)をするのは結構だが、今やるべきことは世界に発信されている間違った情報を早く訂正し、3年後トリエンナーレを必ず開催できるよう軌道修正してください。皆のアンケートも掲示して欲しい。よくこんな危機管理能力のないメンバーで「表現の不自由展、その後」なんて企画できるといったな！！トリエンナーレ好きの、愛知県民として情けないです。</p>

(注) 個人名は役職名としてあります。

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○まず男女同数のとりくみはすばらしいです。(そもそも当たり前にするべきことではありませんが)実際に回ってみて、いかに普段男性作家のものばかりみているか、または女性作家がいても個々の作家性というよりは”女性らしいテーマ選択”がなされた作品ばかりみているか気がつきました。システムとしてのジェンダーの問題を解消しようとしているので、見る側の居心地の悪さもなく、気もちよく見られた。こうした方針はぜひつづけてほしい。</p> <p>○今回のような切り込むテーマは今の、特に日本において必要な存在と思います。良くも悪くも話題となっていますが、私は全面的に支持します。アートの存在価値を、時間をかけて受け止めてもらえる場として、不理解に負けないでほしいです。応援しています。</p> <p>○「表現の不自由展」再開して欲しい。初日に見ましたが、3日間で見た人は限られるはず。現場を見ないで偏った意見が一人歩きしている状態だと思う。</p> <p>○やはりなんといっても中止された展覧会の再開です。せめて中止をめぐる企画(議論)をする責任があります。全体のコンセプトがすぐれているだけに残念です。</p>	<p>○表現の不自由展・その後たった3日で中止になりショックだ。パスも買ったのに(だまされた感じがします)見たくない人は見なければ良いお金を出して見たい人さえも見られないなんておかしい!</p> <p>○左にばかりかたよらない内容を期待している。</p> <p>○県として恥ずかしくない内容を期待している。</p> <p>○観客が意見を交換する場がもっとあると良い。また、トリスクは今回作家の登場や芸術領域の人が少なかった気がする。全ての作品を見ることができるよう。</p> <p>1</p> <p>○表現の不自由展が中止になってしまったのは残念ですが国内外から表現の自由とはどういうものかという論点を出すことが出来たことで少しは発表されたのが良かったと思います。</p>

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○他の地域のトリエンナーレより、社会性のある作品が多くある印象だが、それが良いと思っている。展示を観ることで社会的なテーマに興味を持てることはとても面白い。</p> <p>○表現の不自由展、難しいと思うが、再開できるといいな。訳も知らないでさわぐ人が多すぎるように思う。見てから考えたい。</p> <p>○「表現の不自由展その後」の展示中止がとても残念です。アートは現実の社会問題に対して戦う手段であると思います。そのアートが圧力に負けてしまったのは今後の表現の自由にとって、とても悪い影響になると思っています。</p> <p>○世間の批判に負けず、どんどん社会性、話題性ある作品達を展開してほしいと思います。</p> <p>○現在中止になっている作品が見られるようになることを強く希望します。政治的側面ばかりが報道されているが、感じ／議論する／場を／機会こそ守れるべきだと思います。</p> <p>○今回の問題は「表現の自由」に関するのではなく、「公権力の不当な行使」と「民主的な議論を理解しない者の幼稚な圧力」です。ぜひ次回もすばらしい芸術祭を開いてください。</p>	

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○今回は何につけても表現の不自由展になってしまいました。はやく見ておこう！と思っていたのですべりこみセーフで前回見ることができました。別に韓国がどうのということではなく、ただ隠されているもの、見るができないものを見たいという興味でした。他の来場者たちも淡々と見ていて、なんていうかとてもフツーでした。なので、世間が騒がしいことの落差が大きくてびっくりです。作品も特にとりたてて何がダメなのかよくわからず、こんなものがダメなのかと知って、気持ち悪いなあと思いました。</p> <p>○現在は閉鎖されている「表現の不自由展・その後」に関して展示のコンセプトを理解し、同意した上での入場など、何らかの条件つけても構わないので、どんな展示だったのかを観てみたい。と一人の県民として思います。（来場前に閉鎖されてしまったので）。</p> <p>○作品を見もしないで卑劣なネットでの攻撃をする人々に屈しないでほしい。悪いのはその人達なのだから。</p> <p>○まずは今回の事件で、萎縮することなく自由な表現を発信することを望みます。実行委員会は毅然とした対応をしていただき行政、当局が干渉せず鑑賞する側に立っていただきたい。</p>	

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(1. つづき)</p>	<p>○表現の不自由展の再開：あのような圧力に屈したのは正直恥だと思う。とにかくどう収集をつけるのか、市民や客に説明が欲しい。表現者ならば展示しなきゃ。覚悟が足りないですよ。再開を切に希望します。他の出品者も注目していますよ。</p> <p>○社会に受け入れられるか否か、印象に残りやすいか否かではなく、社会に真に有益かつ、見逃されがちであったり、ともすれば目を背けてしまうような問題をすくい取るような展示を楽しみにしています。</p>	

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>3. キュレーションに関するもの</p>		<p>○実際に展示を見て、内容は良いがわかりづらいトリだった。作品説明がなさすぎる。日本語訳がない。そして展示中止に対しての対応の悪さ。わかりきったことを何故、想定できなかったのか。理解しかねる。あと、芸術監督は最悪。ツイッターでのつぶやきにからみすぎ。気持ち悪い。何故、個人のおつぶやきにそこまで反応するのか。あと、写真×のところであつていてる人に注意をしない。人がいるイミがない。しかもあつていた人は（おそらく）作家の人と周っていたので、関係者の知り合いつぽい。（ゲスト札かけてたし）そういう意味でも今回は最悪という他ない。展示のメッセージ性等よかったのに残念なことこの上ない。次回やる際には、見る人にも優しい展示を願う。チケットは前のシステムにもどしてほしい。今回は改悪ばかりでしたね。</p>



## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>4. 関係者への批判</p>	<p>○知事が表現の自由について、きちんと見解を話して下さったこと、忘れません。テロのような脅迫に負けないで下さい。</p> <p>○主催者のご苦勞に敬意を抱いています。</p> <p>○ツイッターをやっている人はある程度情報入るけれど。芸術監督は、もっと前に出てきてください。直接声が聴きたいです。</p> <p>○表現の自由が脅かされている事、強い危機感を感じています。知事の発言に賛同します。</p> <p>○公費で寛容な展示は必要！金は出すが口は出さないことは覚悟しているか大切。今回の件は教科書検定の思想につながる。為政者が不都合なことに口出しするのも当然だが、愛知県知事ががんばれ。</p> <p>○少女像を含む、表現の不自由展の中止が残念です。持ち物検査や警備を厚くすることで中止する必要はなかったし、今回のコンセプトを考慮した場合、テロ予告に屈するべきではなかった。ただ名古屋市長や大阪府知事に対する愛知県知事の対応はまともでした。支持します。</p> <p>○表現の自由とは何かに一石を投じたことを奇貨とし、何らかのステイトメントなり、シンポジウムなりと持続的につづけてほしい。実行委員の対応は支持します。いろいろと大変でしたでしょうが、すばらしい展覧会をみせていただきありがとうございました。</p>	<p>○過去の3回と比べると印象に残った作品は正直ありません。今回はジャーナリストの方が芸術監督なので作品もアートを楽しむものではなく、作家の思想や考えなど（特に社会の批判的なこと）が色濃く出すぎていたように思います。もっと見てハッピーになれるものもいいです。</p> <p>○勿論、名古屋市長による「検閲」。このような人間が文化の薫り高き国際都市、名古屋に君臨していることが寒々しいばかりだ。</p> <p>○維新や名古屋市長のような歴史修正主義に反対する声も多いと思います。検証委の副座長は、副座長にふさわしくないと思います。</p> <p>○表現の不自由展（韓国少女像展示）が炎上するのはあたりまえでやるまえから分かりきっていた。知事はおかしい、名古屋市長は正常。</p> <p>○反戦メッセージが強すぎる大切なこととは理解できるが、かたよりすぎていると思う。以前は素晴らしい方の参加が多かった。今回はイマイチ、映像でのごまかし多すぎ。芸術監督は間違いだったと思う。会期後の会見を期待する。</p> <p>○パンチの効いた展示物を増やして欲しい。しかし、行なうなら事前のパブリックコメントの時間を半分取ること。左右バランスを取るキュレーターの起用等、公共展示会にふさわしい順序で実施すべきだと思いました。</p>

## 来場者アンケート

	肯定的な意見	否定的な意見
<p>(4. つづき)</p>	<p>○今回の問題は「表現の自由」に関することではなく、「公権力の不当な行使」と「民主的な議論を理解しない者の幼稚な圧力」です。ぜひ次回もすばらしい芸術祭を開いてください。</p> <p>○「表現の不自由展・その後」が開会后わずか3日で撤去されなければならなかったことに悲しみと憤りを感じます。芸術監督を強く推します。バランス感覚の良さが、今日の人出、ファミリーが訪れて館内には爆音も響き、強制的な共感に晒されました！ネトウヨか何かわかりませんが、愉快犯のおかげでこのように大きな事態となり、それがまた宣伝効果となる皮肉。まさに現代アートを浴びたなあと思います。</p>	<p>○表現の不自由展・その後の実行委員の方々を追放すべきだと思います。混乱の責任は彼らにある。</p>

# 国内アーティスト向けアンケート

実施期間: 2019年9月10日～10月7日

実施対象: あいちトリエンナーレ2019国内アーティスト(音楽プログラム及びパフォーミングアーツ参加アーティストを除く)

調査項目:

## 【あいちトリエンナーレ2019に関するアンケート】

該当するものに、してください。

I あいちトリエンナーレ2019全体について、どうでしたか。

とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

II あいちトリエンナーレ2019の「表現の不自由展・その後」についてお尋ねします

1 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨についてどう思いますか。

賛成 反対 どちらともいえない

【展示の趣旨】(引用元“あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」 <https://aichitriennale.jp/artist/after-freedom-of-expression.html>”)

「表現の不自由展」は、日本における「言論と表現の自由」が脅かされているのではないかという強い危機意識から、組織的検閲や忖度によって表現の機会を奪われてしまった作品を集め、2015年に開催された展覧会。「慰安婦」問題、天皇と戦争、植民地支配、憲法9条、政権批判など、近年公共の文化施設で「タブー」とされがちなテーマの作品が、当時いかにして「排除」されたのか、実際に展示不許可になった理由とともに展示した。今回は、「表現の不自由展」で扱った作品の「その後」に加え、2015年以降、新たに公立美術館などで展示不許可になった作品を、同様に不許可になった理由とともに展示する。

2 「表現の不自由展・その後」の展示方法についてどう思いますか。

とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

3 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について、どう思いますか。

とても良い 良い 悪い とても悪い どちらともいえない

良い点、改善点、その他自由に記載してください

調査項目：

4 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて、どう思いますか。

中止は当然 中止はやむを得ない 中止すべきでなかった 分からない  
その理由について記載してください

5 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方について、どう思いますか。

再開すべきである 中止のままでも仕方がない どちらともいえない  
その理由について記載してください

6 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について、改善すべき点があれば御指摘ください

Ⅲ 公立美術館の役割についてお尋ねします

あなたは、公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて、どのようにお考えですか。お考えに近いものにチェックしてください。

絶対に必要 どちらかといえば必要 どちらかといえば不適切 適切ではない どちらともいえない 分からない

Ⅳ 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について御意見があれば、御自由に記載ください

御協力ありがとうございました。

# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>1 あいちトリエンナーレ2019全体について (合計11件)</p>	<p>○ 政治的、批評的なメッセージがある作品が多く、日本国内のアート展とはちょっと違う感じがしました。また、アート業界以外からの芸術監督の人選も面白いです。トラブルもありましたが、彼だからできた事(ジェンダーバランスなど)も色々あったわけで、そういう意味でも良かったです。</p> <p>○ 技巧性や自己満足感、私小説的な表現ばかりでなく、作品それぞれに作家の置かれた環境、考え方が色濃く反映され、表現の多様性を見る事ができ充実していた。国内の美術展では、このような企画をあまり見る事がない。</p> <p>○ 美しい作品がたくさんある。メッセージ性の高い作品が多いように見える一方で、美的にもよく配慮されており、スペクタクルに富んでいる。観客の緊張感をうまく保つための仕掛けがあちこちに仕掛けられており、飽きることがない。観客への気配りがすごい。広報・情宣もよくできていて、全部のプログラムを見たいという気持ちにさせる。</p> <p>○ 芸術監督の個性が強く出ており、現代的な問題意識のある作品が多かった為、作品はもちろん作家の態度のあり方としても、参加者として非常に勉強になった。</p> <p>○ 楽しい。色々な価値観・視点で物事を見ることが出来た。「情の時代」というテーマから、政治的な内容も見受けられたが移民問題など普段日本で生活している中では見えづらい問題について向き合うきっかけができたこと、出展アーティストが男女平等というだけでなく年齢層も幅広かったので、世代ごとの物の考え方や見え方など色々な立場で考えることが出来た。</p> <p>○ 良い点：音楽イベントや演劇など、多様なジャンルがあった。社会問題を多く取り上げ、ビジュアルの楽しみだけでは無いアートの在り方を広く示した。</p> <p>○ ジャーナリストが芸術監督を務めることにより、ジャーナリストがキュレーションした特長が良く出ていて、多角的な視点、作家の選出と魅力的なトリエンナーレになっていたと思います。</p> <p>○ 一部しか見ていないが、ジャーナリスティックな視点を感じる展示が多く、楽しくもあり、示唆に富むものもあった。</p> <p>○ まだ半分しか観れていませんが、作品の内容も一つ前のあいちトリエンナーレよりも、記憶に残り、展示を観終った後も考えさせてくれる作品が多いように思いました。</p>	<p>○ 悪い点：表現の不自由展・その後の騒動により、あいちトリエンナーレ全体にネガティブな印象が取り付いてしまった。</p> <p>○ 改善点は、やはり、不自由展の中止がとても残念です。再開してほしいです。</p>

# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>2 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨について 【選択式】 (合計12件)</p>	<p>○ 賛成(11件) ○ 危機感を行動に移した作家はもちろん、芸術監督やキュレーターの方々の勇気に心から敬意を感じています。開催前にその思いをもっと共にできていたらと、後悔が残ります。</p>	
<p>3 「表現の不自由展・その後」の展示方法について (合計11件)</p>	<p>○ 会場の広さに対して詰め込みすぎの感があったが、一つ一つ丁寧に解説されていて、見応えがあった。 ○ 芸術監督が任命されたことで、彼にしかできないトリエンナーレの方向性、その象徴的な展示として取り上げられたのは十分理解できるし、問題提起としては成功している。これからは多くの人に対して明らかにされた問題をどのように解決していくか。解決しなければならない。 ○ 観ていないのでなんとも言えませんが、平和の少女像の作者は、「反日の象徴」としてこの像をつくったのではないといくら説明しても、そういったことは無視して暴力的に抗議する人がいる、という社会の現象そのものを浮かび上がらせ、それについて多くの人が冷静に考えることができる展示になればいいのになとは思いますが。例えば、作品鑑賞の後、鑑賞者に像の作者の意図は本心だと思うか、アンケートを取り、それを開示するとか。像の隣で「反日の象徴」だと誤解を招くようなメディアの映像や、ネットの記事などを展示し、差別者の存在そのものも見せていいと思います。平和の少女像だけを置くよりも、平和の少女像に対する私たちの「印象」がメディアによってどれだけ歪まれているか、今はネットで全てを調べる人が多い時代なので、知らないうちに、像を反日だと煽りたい人の情報を目にして、像は「反日の象徴」と思っていた人も多いのではないのでしょうか。私たちは、作者のことばを直接展示会場で読んだとしても、まだメディアの印象を引きずってしまうのか。作者を信じることはなぜ出来ないのか、そうしたことで踏み込んで考えられる展示だったら良かったのになと、騒動が起きてから思いました。なぜなら表現を不自由にしているのは私たち自身であるということを強く実感しなければならないテーマだと思うからです。ただ実際に展示を観に行けていないので、なんとも言えない部分はあります。</p>	<p>○ タイトルで語っている「表現の自由」をテーマにしている割りに、扱っている内容が政治的に偏っているのは勿体無い。展示自体も、狭い空間にぎゅうぎゅう詰めで、とりあえず並べているという感じ。 ○ 狭い空間の中に何点も詰め込まれて見づらい。資料展示なのか、作品展示なのか、どちらともつかない展示の仕方がっかりした。他の展示空間同様、ゆったりと空間をとって1点1点、作品を丁寧に見せるべきだと思う。ごった煮で見せるようなものではない。 ○ 本展の配慮の行き届いた展示と比較して、明らかに雑な展示だった。個々の作品や資料に向き合うための環境が整えられておらず、戦略を感じない。せつかくのいい企画なのに本当にもったいないと感じている。 ○ 展示の組み立て方や作品の見せ方がうまくいっていないように見えた。作品が実行委員会の言いたいことを言うためのだけの道具になってしまっていた気もする。議論の場を作りましようと言っていたけれども結局のところ亀裂を生んだだけな気がする。残念です。しかし中止や撤去には反対です。 ○ 趣旨は理解も出来、あえて公共の場でそれを行うという試みは挑戦的で賛成できたが、展示空間があまりにも狭く、作品やアーティストに対するの敬意が感じづらい。一観客としてもとても狭くて見づらかった。(特に入り口通路側の作品。)最初は追いやられた作品たちだからわざと詰め込んだのか、とも思ったがそれにしても年表や解説など、展覧会趣旨からすると大切なはずのものまで読みづらく、展示不許可になった経緯を伝えたいはずなのに狭いために人が集中して、解説も読みにくかったのは良くないと感じた。今回の趣旨から展示を行うのであれば、まずは作品をじっくり鑑賞してもらえるスペースを確保し、年表や解説など多くの人が同時に読めるよう、展示不許可の理由をわかりやすく提示するべきだったと感じる。リーフレットがあっても良いかもしれない。</p>

# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<p>○ 申し訳ございません。残念ながらこちらでも直接拝見していないのでお答えするのが難しいです。芸術監督からの報告書を拝読した限りでは、抗議や脅迫にも十分に備えた方法だったと思います。問題は展示方法よりも、事前準備や告知、関係者同士の意思疎通の方にあるのではないかと思います。</p>	<p>○ 私は展示完了後の空間を見てないので言えませんが、後からネット動画で見て、空間が狭すぎて意図としていた「理由」等を作品とともにもと明確に表示できるようにした方がいいのではと思った。</p> <p>○ 他の会場から、展示室に流れるように自然に入室したが、「表現の不自由展」として観て退室した。言い換えるなら、「その後」という括りがなく、製作者が剥き身で「表現の自由の現在性」を表現していると思った。タイトルとの齟齬なのか・・・。「その後」をどう演出・表現するかについての練り込みが、感じられなかったのが残念である。</p>
<p>4 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について (合計9件)</p>	<p>○ 良い。ただし、他に加えても良かった作品があるとより良いと思いました。</p> <p>○ 作品の選定が政治によりすぎているという批判もありましたが、それが実行委員会の方達の好みなんだろうと単純に思いました。政治がテーマの作品が好きな人もいるだろうと思います。政治的に寄りすぎている展示はするべきじゃないってことを否定し始めたらそれこそまさしく検閲だと思えます。ただこれも、実際に全ての作品を観ていないのでわかりかねる部分もあるし、像を展示するだけ・・・で、中止することにより像は「反日の象徴」なのだと思解を広めてしまっていて、像の印象を悪くするだけになってしまったように思うので、そこは改善していただきたいです。</p>	<p>○ 候補にあったが出品されなかった作家の作品をニュースで知り、それらがあった方が良かったと思った。</p> <p>○ 作品の選定よりも、タイトルの方が問題がある気がしています。表現の自由という問題を、現代社会に生きる人全員の問題として扱うのではなく、実行委員に近い人たちの問題として捉えていると感じました。</p> <p>○ 企画趣旨はとても面白いので賛同するが、作品選定で思想が偏って見られても仕方ないと思った。エログロを含めもっと多様な表現のボーダーラインが見れると思ったので「表現の不自由」ではなく「思想の不自由」展だと看板に偽りありと感じた。「思想の不自由」展であれば公立施設で問うのは微妙だと思う。●●さんや●●さんのように質の高い、アートでしか触れられない表現があるのに、思想が直接的かつ稚拙な表現でまず作品の域まで達してるか？と疑うような作品も混ざっていた事が残念だった。色付きの平和の少女像がよかっただけに巻き込まれて残念。ここもきちんと芸術監督やプロのキュレーターチームが、質の高いキュレーションを目指すべきだったと思う。</p> <p>○ 「表現の自由」の本題からは外れてしまうが、クオリティの低い作品の混在が、この局面において足を引っ張っていると感じる。展示方法とも絡み、キュレーション不在であったことが悔やまれる。作品の選定は世界に広げるべきであったと思う。また過去にも遡るべきだった。その中で自然と現在の日本の不自由の状況が立ち上がる、そういう手法がとれなかったか。</p> <p>○ 2015年の展覧会を踏まえた上での2019年の「表現の不自由展・その後」にするのであればもっとバラエティに富んだ作品が出せたと思うし、反対に2015年の展覧会をもう一度行う、というのであれば数を絞って2015年の展覧会に寄せるべきだったとは感じる。中途半端な気がする。</p> <p>○ 政治性に特化しすぎて見えてしまうのが残念であった。</p>

# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<p>○ こちらも直接拝見していないので。すべての記事を追えているわけではありませんが、見た方の記事や感想を読む限りでは、日本の現政権を批判する内容のみに限る必要があったかどうかは少し疑問が残りました。もっと海外も含めて広く視野に入れ、戦前戦後の歴史を学術的に検証するか、もしくは誰にとっても普遍的に不愉快なもの(例えばエロやグロなど)も含めるなど、見方を狭めずに新たな視点を与えていくような工夫と幅広い選定が検討されても良かったのではないかと思います。</p>
<p>5 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて (合計12件)</p>	<p>○ 大きな事故が起きる前に中止した判断は、間違っていないと思います。</p> <p>○ 人命に関わることなので止むを得ない。</p> <p>○ 京アニの事件のすぐ後であり、何か本当に起こって犠牲者が出るのは何としても避けなければならなかったのは理解できる。しかし表現の不自由展の展示方法がうまくいってもいなくても同じことが起こっていたはずだと思う。もう少し何か事前に準備や対策を考えていて欲しかった。</p> <p>○ あいちトリエンナーレは美術関係の人以外にも、地元の方まで幅広い多くの鑑賞者が来ている印象があり、鑑賞者の安全は絶対に確保されないといけない。また、展覧会準備中に関わった職員の方々が遅くまで働いた姿を見てきたので、職員の方々が苦しんでいる事実が辛い。中止に関しては止むを得ないと感じる。</p> <p>○ 人命が関わっているので中止はやむを得ないが、必ず再開したい。</p> <p>○ テロ予告や脅迫によるトリエンナーレ職員に対するハラスメントを考えれば中止は当然と思うが、「表現の不自由展・その後」の事前対策には疑問が残ります。</p> <p>○ 中止はやむを得ない、けれども、再開の手立ては探るべきだと思います。アーティストがコールセンターを設置するというのには大賛成です。手伝いたいと思っています。もちろん、あとは警備の問題等もあるとは思いますが、このまま終わってしまうのは避けなければと思っています。</p>	<p>○ 結果として「中止はやむを得ない」と思うが、一度覚悟を決めたのなら「中止すべきでなかった」と思う。簡単に扉を閉めて中止できる逃げ道のある会場設定に疑問が残る。会場中枢に展示して、そこを閉めると全体が閉鎖される、ぽっかり穴が空くという覚悟で望んで欲しかった。</p> <p>○ 理由が電凸であると聞いたときには、自分が責任者であっても中止しただろうと思った。しかしその後、公務員の不自由さが原因でもあると思い直し、中止は間違いだったと思った。しかし中止がなければ世間にあふれる膿があぶり出されることもなかったから、その膿が見れただけでも中止の価値はあったと思った。というわけで中止の是非の判断はもうしばらくかかると思う。</p> <p>○ セキュリティ対応など、事前により力を入れてやるべきだし、知事が「テロには負けない」と発言すべきだった。</p> <p>○ 「表現の不自由展・その後」を中止せざるを得ない、この社会の「表現の自由」の現在性について露呈させてしまったことを、どう解釈すべきか、終わってみないと分からないが、中止したことをプラスには、今の段階では思えない。</p> <p>○ 今日の日韓関係の悪化を見ると、続行は暴力を誘発し兼ねません。強行突破することが英断とは思えません。ただ、公開前から「少女像」が火種になることは十分に考えられたはずで、現在の政治状況を見た上で、世間にこうしたものをやるんだと前々から公表し、十分に議論を重ね、専門家や海外の知識人も招いて勉強会等を行う必要があったのではないかと思います。敢えて伏せることの効果を狙っていたのであればなおさら、そこは重く受け止めるべき点だったと思います。事前に意識を共有できていれば、私たちはもっと連帯を大切にできたと思いますし、立ち向かうべき相手もより明確になったはずで。</p>



# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>6 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方(再開)について(合計12件)</p>	<p>○ 脅迫・暴力は単に犯罪だが、作品の批評に関しては税金を使って公開した以上、一般市民の声を良かれ・悪かれ受け止めなければいけないように思うし、公平に見る機会を広く提供すべきかと思う。作品を実際に見て批評する権利を一般の人から奪ってはいけないと思っている。</p> <p>○ 当然再開すべきである。「閉鎖に追い込まれた」のはオープン直後、しかも一方向からの集団攻撃による。それによって問題が表面化し、その後、攻撃に反対する意見や一部の政治家の発言への疑問など様々な意見が噴出し、いまようやく、再度国民に判断を仰ぐ機が熟したと思う。再開した結果は無論世界に公開され、今後の日本の国際的地位に大きく関係することは言うまでもない。</p> <p>○ 全く同じ形でというと難しいのかもしれないが…やはり再開してほしい。</p> <p>○ 早急に課題をクリアし、展示を再開していただきたい。また現在展示閉鎖や展示内容の変更を余儀なくされている作家の作品も本来の姿で展示できるようになって欲しいです。</p> <p>○ テロによって中止したまま終わるとするのは問題であるから。</p> <p>○ 日本の美術にとって、とてつもなく大きな後退で、「表現の自由」を喪失したことに等しいので、何としてでも再開すべき。</p> <p>○ 鶴の如き中止の圧力に、ただただ屈したというのでは、情けない。なんとか、再開してほしい。</p> <p>○ 中止のまま終わってしまったら、日本でまた、引き返せないほど、表現の不自由が進んでしまうと思うからです。</p>	<p>○ 今回の問題は平和の少女像がきっかけになったとはいえ、最終的には天皇の問題に届いてしまった事だと思います。政治問題であれば、ただのイデオロギーの対立ですが、天皇になった途端に、宗教の問題になってしまいます。日本人の宗教観を問うのがテーマではないと思うので、本当に表現の自由を扱いたいのであれば、天皇というだけでヒステリーを起こしてしまう人たちがいる中で、このやり方では無理だと思います。やり方を変えて出直すしかないと思います。</p> <p>○ 全員が出展しているトリエンナーレをもう一度見たい、という気持ちはある。しかし、あのまま展示を再開するのであればまた同じような問題が起きてしまうのではないかと。再開をするのであれば展示方法を変えたり、前もって作品についてしっかりと宣伝をした上で行うべきだと考える。</p> <p>○ 問題が大きく、複雑になりすぎているため、展示再開は難しいのではと思う。</p> <p>○ 状況次第です。声をあげることに以上声のあげ方が問われる時代だと思います。脅迫に屈しないという強気な態度だけでは、今の流れに対して立ち向かうことはできません。過激な人間に過激に応戦することは火に油を注ぐようなものです。また表現に関わる人間同士で噛みつきあったり、身内だけで議論することも自己満足に陥り兼ねませんし、世の中への効力は期待できないように感じます。「表現の不自由展・その後」の再開を急ぐ前に、私たちの目の前に傷ついた人がいることを忘れずに慮ることと、表現者だけの問題だと無関心でいる一般の人々に向けて、日本の表現の危機を訴えかけることが急務だと考えています。「脅迫で表現の自由を奪える前例を作ってしまった」と訴える方のご意見も、よく理解できます。一方で、日本を代表するジャーナリストを責任者として迎え、県知事にバックアップを受けてもなお、脅迫や政治的圧力から表現を守れなくなってしまったくらい今の日本はもはや不健全なのだという事実も、同時に直視する必要があるのではないのでしょうか。そこから始めなければ何も再開できないと思います。</p>

# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>7 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について、改善すべき点について (合計10件)</p>	<p>○ メディア含め、天皇に関する部分をあまり話さない事が、物事をややこしくしている部分があると感じています。とはいえ、それをやる事が可能なかどうかは分かりません。少なくとも、恫喝する政治家は法律を犯しているの、彼らを訴えて発言を撤回させる必要があると思います。それができれば、不自由展の復旧は無理でも、良い結果を残せると思います。</p> <p>○ 芸術監督、知事の意見はよくニュースになって見る事ができるが、個人的にはアートのプロであるキュレーターの方々の意見や感想といった具体的な話が見えてきてないと思う。各キュレーターの方々がどのように見ているのか意見や話を聞ける機会が欲しい。(ただ、チームとしてやっている以上、言いにくさはあるのはわかります。)</p> <p>○ ●●氏が知事であったことは大きな救いだった。不自由展実行委員会とトリエンナーレの間で最初からボタンのかけ違いがあったのは非常に残念で、そこは企画のミスを認めなければいけないが、芸術監督およびトリエンナーレは大局に誠実に動いているという印象を受けている。最終的には県の判断が大きいと思うので、引き続き知事に期待している。</p> <p>○ 知事の毅然とした対応はとても素晴らしく、支持している。芸術監督たちと不自由展実行委員会と足並みが揃っていないように見えるのがやはりちょっと気になる。</p> <p>○ よく頑張って対応していると思う。</p> <p>○ Re Freedom aichilに対して、あいちトリエンナーレ実行委員会側はどう考えているのか、どうリアクションしていくのか、もしあればお聞きしたいです。</p> <p>○ 開催前にもっと企画意図の説明と意識の共有の場が必要だったと感じています。その点に関してだけ非常に残念です。起きてしまったからは必要な対応をその都度してくださっていると思いますし、こうした状況の中、各アーティストに連絡し、声を集めていただいて感謝しております。今は力を合わせて無事に芸術祭を完走させることが何より大切だと思います。</p>	<p>○ 最初から疑問だったのは、芸術監督や実行委員会の方々の声は聞くのに、不自由展の参加アーティストたちの言葉が聞こえなかったこと。中止に当たって、参加アーティストたちに対してどう説明したのか、その時のアーティストたちの反応はどうであったのか。オープンディスカッションに参加する中で、言い方は悪いが●●さんのように巻き込まれてしまった、十分に伝えることが出来ないまま終わってしまい、不安や憤りを感じるアーティストも多いと感じた。問題になってしまった作品もはじめ、不自由展のすべてのアーティストたちはどうしたいのか、どう感じているのかをまず知りたい。そこが抜け落ちているように感じる。また、彼らがどういう意図で作品を制作しているのか、もっと明確にまとめて発信できないのかと疑問を感じてしまった。</p> <p>○ 私は群馬にいますが、現場の動きについての情報がほとんど来ない。委員会、知事の基本的方針を、はっきりと発言していくべきだ。次の展開への…ゴールが見えない。テロにやられて終わりというイメージが大きくなるだけ。</p> <p>○ 「表現の不自由展・その後」の再開に向けての情報が不透明だと思います。</p>

# アンケート結果(国内アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>8 公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて 【選択式】 (合計11件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絶対に必要(8件)</li> <li>○ どちらかといえば必要(2件)</li> <li>○ 公立の場だからこそ必要。自由の問題、権利のことなど、公の場で観客が考え、議論できることをつくり、保証し、文化をつくり出していくのが公立美術館の役割である。税金使って当然。</li> </ul>	
項目	意見	
<p>9 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について (合計7件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回の事にめげずに、今後も挑戦的な方向で継続して行ってほしいと思います。</li> <li>○ 今回の件で、あいちトリエンナーレの果たすべき役割が国際的になったと感じています。次回のトリエンナーレは、芸術監督はじめ関係者の誰もが及び腰になるかと想像しますが、実際、今回は、今後の日本を左右するほどの影響力を持つことになると思います。いずれにしても覚悟が必要で、そのためにも今回の残りの会期でどう伏線を張っておけるかが鍵を握っていると思います。個人的にはあいちトリエンナーレのネアカさが大好きです。愛知には突拍子もない物を面白いがる風潮と寛容さ、あっけらかんとした明るさがあり、それが芸術祭の独特の魅力を生んでいるのだと思っています。実際、その空気を慕って芸術祭のあとに愛知に移り住む作家がけっこういると聞きます。それだけに、名古屋市長の暗く粘着質な発言には驚きました。今回の事態は「明るさ」だけで乗り切れるものではありませんが、地元の人を楽しめる芸術祭であることに加え、これからあいちトリエンナーレが獲得すべき「国際的評価」は、今回の事態に愛知がどう答えていけるかに掛かっています。隣国に対する差別的な態度に今後も愛知が加担するようなら、どの国の作家からも見向きされなくなり、愛知で同様の国際美術展を開催することが事実上難しくなる。事態が愛知にとどまればまだしも、日本全体が孤立する危険性すらあります。</li> <li>○ 地元のオーディエンスに非常に愛されているトリエンナーレだと実感した。今までの成果は素晴らしいし、今年の試みもチャレンジングで価値あるもの。それらを次回に繋げていくために、協力したいと思う。</li> <li>○ 「表現の不自由展・その後」の展示再開が難しいとしても、展示を中止、変更した作家の展示を元の状態に戻す方法を考えたい。</li> <li>○ 作品は公開された以上、他者に届けなければ全く意味のないものということと同時に、様々な立場の作者が参加し、あらゆる思いがある中で、炎上という極端な見方を促す在り方は望ましくないと思います。表現、言論の自由は会期中だけの問題ではないので、もっと長い目で見て解決の道を探る必要があると感じています。あいちトリエンナーレ関係者だけがこの問題を抱える必要はありません。たくさんの人の知恵と力を、もっと広く借りるべきです。</li> <li>○ 暴力的差別的な声により実際に芸術祭の展示が中止されるという事態を見て、率直に恐怖を感じた。このままにしておいてはいけません。</li> <li>○ 愛知県知事と名古屋市長は、アートについて思索し、見識を持つこと。いろいろあるだろうが、それなりにコミュニケーションを取ってほしい。</li> </ul>	

(注)個人名は非公開又は役職名としてあります。

# 海外アーティスト向けアンケート

実施期間: 2019年9月10日～10月7日

実施対象: あいちトリエンナーレ2019海外アーティスト(音楽プログラム及びパフォーマンスアーツ参加アーティストを除く)

調査項目:

[Aichi Triennale 2019 Questionnaire]

Please answer the following questions. If you click the appropriate check box, a check will appear.

I. What is your impression of the Aichi Triennale 2019 overall?

Very good Good Fair Poor Very poor

If you selected “Very good” or “Good,” please write down good points. If you selected “Poor” or “Very poor,” please let us know areas for improvement.

II. “After ‘Freedom of Expression?’”

<The concept of the exhibition> (Source: <https://aichitriennale.jp/en/artist/after-freedom-of-expression.html> )

Freedom of Expression? was held in 2015, motivated by a serious sense of crisis concerning threats to freedom of speech and expression in Japan. The exhibition collected works that had been rejected or removed from exhibition by either systematic censorship or fear of causing controversy. Works dealing with themes which have been deemed taboo by public cultural institutions in recent years (such as the issue of the Japanese Military “Comfort Women”, the emperor and wartime responsibility, colonial rule, Article 9 of Japan’s constitution, or criticism of the government) were displayed along with the actual reasons given at the time for their removal. At Aichi Triennale 2019, works newly refused exhibition at public galleries after 2015 will be displayed with the reasons for their rejection in similar fashion, in addition to revisiting works featured in the original exhibition.

1. What do you think about the concept of the exhibition “After ‘Freedom of Expression?’”, one of the sections of the Aichi Triennale 2019?

Agree Disagree Neither agree nor disagree

2. What do you think about the way “After ‘Freedom of Expression?’” was displayed?

Very good Good Fair Poor Very poor

If you selected “Very good” or “Good,” please write down good points. If you selected “Poor” or “Very poor,” please let us know areas for improvement.

調査項目:

3. What do you think about the artworks selected for “After ‘Freedom of Expression?’”?

Very good Good Fair Poor Very poor

Please write down reasons why you think so.

4. What do you think of the closure of “After ‘Freedom of Expression?’” three days after it opened due to the difficulty of ensuring security and safety?

Understandable Inevitable Should not have closed Unsure

Please write down reasons why you think so.

5. What do you think should be done with regard to “After ‘Freedom of Expression?’”?

It should be reopened. It unfortunately must remain closed.

Hard to say

Please write down reasons why you think so.

6. Do you have any advice for the Aichi Prefectural Government and the Aichi Triennale Organizing Committee in relation to disclosing information and providing explanations about the incidents surrounding “After ‘Freedom of Expression?’”?

III. What do you think about public art museums having freedom in what they exhibit, including ideas, thoughts, and knowledge?

It is necessary at any cost. It is necessary. It is neither necessary nor inappropriate. It is not appropriate. It is never appropriate.

Unsure

IV. Do you have any overall comments or suggestions about the Aichi Triennale (comments on past Aichi Triennale exhibits, suggestions to improve the Aichi Triennale in the future, etc.)?

Thank you very much for your kind cooperation.

Aichi Triennale Investigation Committee

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>1 あいちトリエンナーレ2019全体について (合計11件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Very international and with contemporary issues.</li> <li>- I greatly appreciate the curator's approach and the work of the curator and the professional installation team.</li> <li>- The exhibition of Aichi Triennial itself is very good. The range of artworks is very interesting and there are a lot of relevant topics discussed in the artworks and the different sites are professionally arranged. It is a very well curated interesting Triennial on a high standard.</li> <li>- The closure of "After Freedom of Expression" makes it impossible to give an unbiased view of the overall show. With the exception of that, I think it was a great show, with lots of interesting, high-quality art.</li> <li>- I think the quality of the curatorial team and all the staff is outstanding, professional, intelligent and helpful. I think the problem is that the politics of the country do not deserve them.</li> <li>- I think overall it is a well-curated, well-organized exhibition with a grouping of works that address a variety of contemporary issues, viewpoints and approaches to the art-making process. One of the strongest characteristics in my opinion is the push to have diversity of the artists as far as ethnicity and gender,</li> <li>- My personal experience working with the team has been great.</li> <li>- Generally very good artworks (I saw only the Aichi Arts Center and half of Endoji/Shikemichi) and very well installed and presented.</li> <li>- 总的来说我觉得展览还是挺棒的，我花了很长的时间把展览看完，看到了很多我喜欢的作品。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- It is difficult to answer this question, because Aichi Triennale has been transformed into something by the complications brought about by the closure of "After 'Freedom of Expression?' ". On the one hand, my experience of working with the curatorial team and the supporting staff has been excellent. But the controversy over "After 'Freedom of Expression?'" has unfortunately overshadowed everything, straining relationships between various parties and causing continuous strain long after the opening.</li> <li>- While the exhibition – the selection of artists and selection of works – was of extremely high standard, the closing of 'After Freedom of Expression' section overshadowed the quality of the exhibition. This act of censorship erased the good faith for the Aichi Triennale to show Japan as contemporary. It was a shame as the quality of the theme of the triennial was excellent and section 'After Freedom of Expression' was the best conceptual gesture that could had made a societal difference if kept open, or if reopened, to put the triennial at the level of other international exhibitions and a lesson to other venues in the world who were censored and where not able to reopen.</li> </ul>
<p>2 「表現の不自由展・その後」の展示の企画の趣旨について【選択式】 (合計11件)</p>	<p>賛成(11件)</p>	

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>3 「表現の不自由展・その後」の展示方法について (合計9件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- In artistic expression it is very important to point out the problems of society even in a controversial way. Critical thinking is essential for the development of culture</li> <li>- Art is a safe space for society to deal with traumatic historical events, as well as current unresolved issues. Therefore, the concept ‘After Freedom of Expression’ for the exhibition was excellent and appropriate for the triennial, especially as it brought historical issues to current public current conversations seventy-five years after the event. The closing of this section gave the impression that Japanese society is not ready to acknowledge their pasts, but that it is also a society with a strong tendency towards censorship and repression. Ultimately, that it is not ready to enter into the contemporary world of art. The way ‘After Freedom of Expression’ was displayed was very good once you entered the space as it was well designed. This was due to the following reasons: there was space for each work; the texts next to work were well written to allow understanding for people who did not know anything about the issues, historical relevance and facts, and the issues that caused the censorship, such as foreigners, young people etc. However, it was very hard to find ‘After Freedom of Expression’ and this signals that this section of exhibition was not important. While I think it was the best part of the whole triennial, not only for the quality of the individual works, not only for the fact that it showed things that the audience may not know about, or know very little about (which is excellent for an exhibition), but also because of the relevance of having such a conceptual gesture within a triennial.</li> <li>- I had the chance to see the exhibition during the opening days. Even if it was really full of people, I managed to understand the point of the exhibition.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The After Freedom of Expression exhibition has to be seen as a conceptual statement, therefore the single works, nor the display can be judged according to the artistic standard of the rest of Aichi Triennale. I think the position of the exhibition inside the exhibition is not really clear. If would have been an artistic concept it would have been better.</li> <li>- It is difficult to express a simple and straightforward judgment of the exhibition. On the one hand, this section was probably one of the most important components of the Aichi Triennale, because of the continued relevance and urgency of its contents. But on the other hand, there did not seem to be much thought given to the display of the works either ‘aesthetically’ or ‘politically’. These works seemed to be presented simply as “examples” of censorship – and as such were simply packed into a space without giving each of them much breathing space – as compared to the rest of the Triennale (which was more carefully thought through) – this has reduced this art objects in “After ‘Freedom of Expression?’ ” to being simply objects or “information”. Neither were the works in “After ‘Freedom of Expression?’ ” recontextualized or re-presented adequately. This is not to mention the highly inadequate preparations surrounding the exhibition in terms of security (the exhibition was set up in a “dead end” space)</li> <li>- I did not see it. I don’t like this question of the next one because they imply that it was the exhibition’s fault that it was attacked and censored. In this case the exhibition is the victim of censorship and whether the works were good or bad is irrelevant.</li> <li>- Each democratic country has falous. But democracies should stand for freedom of speech, and for art. If not, they are not DEMOCRACIES…</li> </ul>

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- I think as far as the way the physical exhibition was displayed, it was successful in that the environment was serving the purpose of the work (which is to be viewed) in the same way that the other exhibitions were. There are those even in the U.S. who say that a controversial exhibit should come with a warning label, but I believe that mirrors censorship and does a strong disservice to the work itself and doesn't allow for the viewer to have an objective experience and form an opinion for themselves. The only time that should apply is when there is a physical safety hazard to the viewer (such as strobing lights affecting those who have epilepsy). So my opinion is that it is successful, but again I would always leave room for improvement as I'm sure the artists involved in that exhibition have many ideas about how the exhibition might evolve in the future.</li> <li>- 这个展中展我非常喜欢，事实上我也花了大量的时间在这个区域浏览文献以及与艺术家交谈。通过了解这个展览中作品遭遇的审查，加深了我对艺术与社会之间关系的认知，收获非常大。当时看完以后其实特别佩服策展团队和主办方的勇气和开明的态度，我非常欣赏这种对于自由表达的支持！</li> </ul>	
<p>4 「表現の不自由展・その後」の作品の選定について (合計10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- It's not "how good art", but what issue and content leaves to censorship.</li> <li>- It is good to point out the injustice of the past, especially when it comes to the suffering of civilians, as women and children.</li> <li>- The variety of subjects of the different works displayed in 'After Freedom of Expression' gave a spectrum of the issues that are sensitive to authorities and the Japanese people over the past few years, and it showed areas in which Japanese society could still improve its reflection. While the most controversial piece addressed the Emperor and the comfort woman, there were other works that were equally as important and depicting equally complex issues in modern Japanese society that need to be addressed. Additionally, it was very important in this exhibition to see the different places and circumstances where censorship has happened. Giving a complex cartography of the way in which Japanese society interacts with its own freedom of expression.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The artworks themselves, seem to be out of the political Agitpop direction. They use strong symbols in order to provoke. It should have been clear, that it is sensitive material in times of political tensions and that this material will provoke controversy, beyond the usual, more complex ways, how contemporary artworks address the feelings of spectators.</li> <li>- 总的来说在作者的范围内，做到了一定的高度，唯一遗憾的是太过于局限在日本语境中。事实上艺术表达的不自由，在很多其他国家地区，更为严重。甚至不仅仅针对作品，更有针对艺术家的迫害。如果这些都能搜集和表现出来，呈现一个更世界范围的图景，我会觉得非常棒！我甚至觉得如果真的下功夫和花世界，这个关于审查的主题可以办一个不小于爱知三年展规模的大展览！</li> </ul>



# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Freedom of expression is a basic right of a functioning democracy.</li> <li>- They were interesting works that fitted the purpose for which they were selected: they had been censored. They were censored again in AT.</li> <li>- I think there should be no argument that the works chosen for this exhibition were all wise choices as the extreme reaction to them clearly validates the need for them to exist and indicates the on-going need for the conversation these works invoke within Japan and the right to hold space that exhibitions like this represent all around the world.</li> <li>- Showing a selection of banned works in order to understand the reasons for their censorship brings about an important moment for cultural and political reflection. Thus, the closure is paradoxical.</li> <li>- It does not matter whether these works were strong or weak as art objects as they were simply information or examples - to make a case about freedom of expression. This is in itself highly problematic - but not indefensible as a curatorial concept - although what eventually happened to it - censorship - made this endeavor a failure.</li> </ul>	
<p>5 「表現の不自由展・その後」の展示について、安全安心な運営が困難となったことから、展示が開催から3日で中止となったことについて(合計12件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- It shouldn't have been closed, but understandable after this threatening actions.</li> <li>- I see the closure of the section by Aichi Triennale mainly as an issue of safety and not censorship. I am against censorship but ensuring the safety of the audience under the threat of terrorism is more important than the display of art. However, I do think that the Triennale should do its best to work with the city and prefectural government to ensure that the section can be reopened while ensuring the safety of all visitors and inhabitants of Nagoya.</li> <li>- 我可以理解因为在我的国家我经常遭遇和听说这种状况，事实上我也非常佩服整个展览团队的努力和勇气。但我依然觉得这些艺术的表达不应被禁止，日本是一个文明程度非常高的国家，我以为这种事情不会发生。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Closure of the work just proves that the historical theme in Japan is still unresolved and should be dealt with not by closure but by displaying the work.</li> <li>- As mentioned above, the closure of "After 'Freedom of Expression?'" made the exhibition of this section a complete failure, and although it could have been framed as having proven a point that censorship exists, this cannot justify the complete capitulation. I think the event has shown that deep systemic problems persist not only in the Japanese political structures, but also pervades the Japanese culture. It has shown how easily Japanese political systems can be "subverted" - for example, by the Nagoya mayor - utilizing social media to bypass constitution (which should protect citizens and freedom of expression). And the inability of the political structures to react or respond with force to this subversion shows the fragile state of its democracy.</li> </ul>

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<p>- The fact that it closed three days after opening, without a public discussion on the issues that arose from the content was completely inadequate. The fact that the artists in the exhibition were not properly informed about the closing of the exhibition was wrong. The fact that censorship was branded as a risk management situation is offensive. And the reason for this is because if it was only risk management, there are specific strategies that are employed to maintain peace and control the risk. Firstly, the threatening telephone calls made to the exhibition staff at the beginning of the exhibition could have been resolved by placing a specialist on the phonelines to deal with threatening communications. Secondly, if an art venue has a threat of someone coming and burning/attacking the venue, the way to deal with this form of risk is to either put more security in the venue: in the section of the exhibition and at the entrance of the exhibition where they could search people and the personal belongings. Thirdly, to allow people to make an informed decision about entering the section of the exhibition a sign could have been posted at the entrance with ‘This area has sensitive material’. Additionally, there could have been more guided tours through the exhibition where the audience could have a mediated relationship with the work, and therefore having a way to understand the complexity of the works. Instead of only the primary reactions of like/dislike. Moreover, if there was awareness that people could have strong opinions or reactions to the work other forms of mediation could have been in place. For example, post-its or notepads in areas of the exhibition where people could write their thoughts and discharge their anger or love towards the works etc. It was extremely offensive to have such an important part of the triennial closed only have a simplistic text as an explanation of its closure outside of the closed doors (see attached image) which only denotes that the exhibition is closed without any further information. This allows misinterpretation of what happened in this section and is disrespectful to the audience as it does not allow them to have their own thoughts on the decision that was made. It is also a lie because it was not closed, but it was censored. And the public has the right to know this. Why I insist that it was censored, and not only closed for risk, is that the definition for censorship is for when you withdraw/close a work from an exhibition because of its content (in this case the comfort woman). Closing the section of the exhibition three days after opening did not allow the rest of the public to create its own opinion about the work, meaning that the few people that called and that carried bottled water had more power and more privilege than the thousands of visitors to Aichi Triennale. And it also gives the crazy extremists the sense that what they do will be privileged over the majority. This is extremely dangerous. It was the gesture of closing, and not reopening the section, that is the most negative image we can give Japan with the irony of censoring an exhibition that examines and highlights acts of censorship. But it shows the need to stop politicians from interfering, and deciding what is and what is not art, and what should or should not be shown in an exhibition. And again, this is dangerous.</p>

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
		<ul style="list-style-type: none"> <li>- There should have been a contingency plan in place for this. This is an act of censorship of visual art and freedom of expression, threats against other types of events (sports, politics, etc) would not cause them to close.</li> <li>- I think it is a scandal that it was closed. Totally unacceptable. The political climate that forced the excellent team of AT to close the exhibition is unfit for a functioning democracy.</li> <li>- Along the same lines as what I said above, regardless of if this exhibition had closed moments after it opened or never closed at all, it deserves to be open and exist just like any exhibition should have the right to exist. Anything else is censorship, plain and simple, and is indicative of a larger problem in any political system. This is because if an exhibition is allowed to be censored, it is likely that that other forms of expression such as the press and media will be or are being censored as well.</li> <li>- I understand it was a very difficult situation but closing it had the absolute opposite effect of what its original purpose was and it was great disrespect for the artists in "After Freedom of Expression?" and a terrible precedent in terms of censorship. From now on, anyone who wants to censor anything knows exactly what to do.</li> <li>- The section should not have closed. I cannot fairly asses the resources that the triennial had for ensuring the safety of its staff and visitors. Ultimately, the local government had to ensure the security of the show.</li> <li>- Closing the exhibition is sending very wrong signals. First of all, the intended concept of criticizing an institutional landscape of conformism and censorship, is thereby totally failed, even more the criticized Censorship is repeated. Any credibility is lost. Nationalist terrorists get through with their demands. It shows them, that terror and threats are working as functioning political weapons to get their will. Maybe this situation is creating even a higher danger to political terrorism in the future.</li> </ul>
<p>6 「表現の不自由展・その後」の今後の展示のあり方(再開)について(合計10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- It must be reopened. Because this will remedy the impression of a dictated regime, which I think Japan, should not be presented at present, especially in the gallery and art world</li> </ul>	

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- I should be reopened immediately, with an incensement of security. That is, what has been done in other comparable situations of threats towards art exhibitions around the world. -Too much time has passed already without taking proper measurements. Any passing day makes it more unlikely and more ineffective to reopen the exhibition. Another option I see in declaring the intention, to do an exhibition outside and after the Triennial, where “After ‘Freedom of Expression?’ is separately shown and contextualized by interesting, complex contemporary artworks, addressing the topics in the exhibition. This exhibition can be followed by a program of discussions and necessary security measurements can be planned in the first hand.</li> <li>- It is urgent that ‘After Freedom of Expression’ is immediately reopened, but due to the trauma for the staff at the opening of the exhibition and the media frenzy, I would like to see it done with proper educational care. For this it would be desirable to have a public debate and discussions about the exhibit – public meaning open to everyone (favorable and against), with both experts and the general public – and why it is important to not close the exhibit, and the historical facts addressed in the works, and the state of cultural repression and selfrepression in Japan and in the world. I think the Aichi Triennale has the one and only opportunity to show the world how to properly address difficult subjects, contemporary and historical, by reopening the exhibition as soon as possible. This will become a cited example when similar acts of threats, and the inverse act of censorship, and they will look for Japan’s response if it is reopened. I still have strong faith that the Japanese government and the curators will do the right thing. Even if it means that the curators act differently to politicians, and exhibit freedom of expression while under pressure from politicians.</li> </ul>	

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	肯定的な意見	否定的な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Freedom of expression is a basic right of a functioning democracy, protected by the Japanese constitution. If you submit to threats, you are allowing political pressure and terrorists to control society and set the agenda.</li> <li>- It should be reopened immediately. See answer above: The political climate that forced the excellent team of AT to close the exhibition is unfit for a functioning democracy.</li> <li>- To this point I would simply restate what I have said above. The censorship and closure of an exhibition of works that have already been censored before just further underlines their right and need to be made and exhibited in order to invoke awareness, exposure, opinions, thought and hopefully to fruitful and productive conversations the same way that other works might invoke.</li> <li>- It should open as soon as possible because keeping it closed says that Japan is a country where censorship can happen because the authorities are unable or unwilling to provide the safety measures needed to keep their own events open. Opening the exhibition only two days before the Triennale closes, is just as bad or worse and to me would seem like only pretending to open, without really defending the work you originally invited. In that case it would be better to accept defeat before a handful of extreme right activists or continue with what you have said from the beginning that you really did not have the conditions to open.</li> <li>- Leaving the section closed would strengthen political censorship and empower those who intend to silence artists and cultural voices.</li> <li>- (See above. On another note: it might be good to consult the general public what they want, since it's a public exhibition and they should be given the opportunity and responsibility to decide.)</li> <li>- 我依然期待自由的表达可以打通人和人之间的障碍。我同时也觉得对待历史应该有一个正视的态度。我希望这2点得到贯彻和取得胜利，最能体现这两点的就是重新开放这个展览。</li> </ul>	

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	意見
<p>7 「表現の不自由展・その後」を巡る一連の出来事に関して、これまでの情報公開や説明など、県やあいちトリエンナーレ実行委員会の対応や説明について、改善すべき点について (合計10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- All has to be open information!</li> <li>- One possible consequence could be, that the director resigns from his position as a director and makes a statement, where he takes full responsibility for the events. Chief curator will be nominated as the new director of Aichi Triennale for the rest of the time. Also, the original thematic direction of equality and gender was not properly carried out. If there is a critique on equality, the leading positions should be given to female voices. In the events of the opening ceremony and the public visibility, the old structure of male representatives was unbroken, even if a huge part of the high-quality work was done by female positions. That is also highly questionable point about Aichi Triennial. Combining the two points of critique, there might be a problem of credibility towards the intended messages of tolerance and equality.</li> <li>- Dissemination of information and discussions should have been undertaken from the very beginning – this might have helped greatly to close ranks with the artists and participants. When information and explanations finally came through, they were not only too late, but at the same time, full of ambiguity and contradictions, unaccompanied by any real action.</li> <li>- The advice we have for the committee is to employ a separation of powers. In a society where executive, legislative and judicial powers are kept separate, art should reflect this as well. The powers of the politicians should not interfere with power of the curators and the artists to exhibit and create work. Contrary to corporate sponsorship, when an event is done with public resources and when the even government of Aichi is the president of the cultural festival there should be even less interference in the content of the festival. This is because public resources should not only be allocated for defending the political and ideological position of the politician in power, but the best use of government resources is towards healing a historical wound, even if it is not convenient for politicians and does not reflect the views of the ones in power. Cultural is a process that exists beyond and longer than any politicians seat. My recommendation for the committee is that they should be as transparent as possible with the artists in the exhibition, and the general public. Even if the result is not a pretty picture or reflection that they want for themselves. Even if it emotionally messy. And that the only way for a true cultural process can happen is with appropriate educational tools and systems that aid in mediation and reflection and do not attempt to lie or conceal Also, to defend beyond any pressure the freedom of deciding what is shown or not shown in an exhibition. They are the experts – the politicians are not. Each time a cultural event goes into a politician’s self-interest it is an act of censorship. Today it is a section of an exhibition. But tomorrow it could be something as ridiculous as not allowing any foreigners art in Japan. Each time you allow censorship it is terrain that they have gained for their new position to enact their beliefs. It is extremely important to defend the right of freedom of expression now, and not concede to fear and political interests because of the potential danger it could have in the future.</li> <li>- If the unacceptable closure of the exhibition continues (I know in spite of efforts of AT team) all the reasons that led to the closure should be exposed and clearly visible inside the AT general exhibition, so that the audience understands why the right to see the exhibition has been taken away from them,.</li> <li>- I think my only criticism would be as an artist based abroad, I had to leave Japan shortly after the opening of Aichi Triennale and the only “official” contact I have had was the recent letter from the Governor. Based on certain political extremists’ reaction to this exhibition though, I am hesitant to divulge the Japan-based sources that have been doing an excellent job of keeping me informed. As I write this, I’m not sure who the review committee consists of or their political aims in gathering this information.</li> </ul>

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	意見	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- I don't know what to advice here because from the beginning there has been information in the press about the harassment and threats by extremists. However, I find the fact that staff had to stay listening to people for many hours and receiving threats and mistreatment, and not being able to do anything, terribly cruel. I think both the Aichi Prefectural Government and the Aichi Triennale Organizing Committee have to take better care of their staff. I don't think the problem is in disclosing information and providing explanations, but in the fact that you have not been able to provide the safety conditions for the exhibition to reopen.</li> <li>- The triennial must demand the government support needed to reopen the section. It is important that the triennial, as an organization fights censorship together with the artists.</li> <li>- Transparency is of utmost important. Whatever decision is made, the reasons should be communicated to the public so that everyone is better informed to make decisions moving forward.</li> <li>- 加强对展览工作人员的保护，并且依法惩治暴徒。</li> </ul>	
項目	肯定的な意見	否定的な意見
<p>8 公立美術館が、思想や知識も含めて、自由に展示することについて 【選択式】 (合計12件)</p>	<p>絶対に必要(6件) 必要(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- It is necessary at any cost, but it is the responsibility of the cultural institution to mediate between knowledge and emotions in the audience, to educate the viewers and to address the areas that could be emotionally challenging for the audience. The institution has a responsibility to defend freedom of expression by making it an educational process.</li> <li>- It is necessary, but museums should have the necessary training and educational tools to be able to do this.</li> </ul>	

# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	意見
<p>9 今までの展示や、今後のあり方等、あいちトリエンナーレ全体について (合計10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Let's see how other institutions do with freedom -!</li> <li>- Aichi Triennale is a high quality international platform for art and critical discuses, this should be valued and continued in the future. Art should not be misused as a political tool. Never the less, the freedom of art is an important cultural and political seismograph for a society and it`s democratic values.</li> <li>- I think a genuine attempt needs to be made to defend freedom of expression – not simply as a gesture, but with curatorial guile and care, as well as management of public relations and perceptions – in order for genuine debate to take place</li> <li>- I strongly suggest reopening ‘After Freedom of Expression’ section of the Aichi Triennale with enough time before the closure of the triennial. To have the appropriate educational process because it could be as damaging as closing three days after opening, without proper information, as it would be as dangerous reopening with only three days before the end of the Aichi Triennale. There would not be enough time for a public debate, for people to see the work, and without the proper educational infrastructure (guided tours and educational text) to explain the complexities of the works. It is necessary at any cost, but it is the responsibility of the cultural institution to mediate between knowledge and emotions in the audience, to educate the viewers and to address the areas that could be emotionally challenging for the audience. The institution has a responsibility to defend freedom of expression by making it an educational process. Also, it is as negative to have a simplistic text outside the censored exhibition denoting its closure, without any more information to re-opening without any other information. This is inclusive of the emotions and feelings of the curators, artists and exhibition staff. It will be important when it reopens to make sure people know that the area has a potential emotional impact and that there are is proper mediation for this to be addressed. The longer it takes to reopen, the worse the triennial looks. And for such an important national and international exhibition, keeping this section closed tells artists that the only way to show and exhibit their work is through a censored lens. This will have a detrimental effect, over a longer period of time and deeper form of censorship even if it is as collateral damage. And this collateral damage will be bigger than the actual exhibition. I was surprised that the closure was done so quickly and so permanently. By make the opinion of one or two people (the ones that threatened the event and the staff) more relevant that the right of the people to see the work is a longterm danger. I am completely confident that the way in which the curators and the staff of Aichi Triennale in discussing these issues with the press, or open discussion like the one we had in Nagoya, and even this questionnaire is a great way to start the conversation and the process to reopen the exhibition. Please come to me with further cooperation, after reopening ‘After Freedom of Expression’.</li> <li>- I think a clear-minded assessment of the political climate should be assessed before the opening of exhibitions, not to self-censor them, on the contrary: to find the best ways to educate audiences on freedom of expression, an absolutely necessary component for democracy. Not to respect that right is to construct authoritarianism. We all have a duty to the next generations: they have the right to know and to see, to debate and discuss: an ignorant audience is easy prey for totalitarian governments – and we know what we can expect from that type of governments.</li> <li>- I would again restate my appreciation of the diversity of the artists and variety of approaches exhibited and hope that this can be pushed even further in the future. After seeing what has happened following the closure of “After Freedom of Expression” I realized just how much risk the curators were taking in organizing this exhibition, so despite what the outcome may be going forward, they have my respect and support in recognizing the importance and value of exhibiting work that pushes the envelope so to speak, in Japan.</li> </ul>



# アンケート結果(海外アーティスト)

項目	意見
	<ul style="list-style-type: none"><li>- I suggest having a clearer idea of what to do in terms of controversial exhibitions. <a href="https://ncac.org/resource/museum-best-practices-for-managing-controversy?fbclid=IwAR3uFM5HZmBF93KNH90Nj1NDtcIeMVW-poDGntY-e9FgF3KgzoYNoTWmgU8">https://ncac.org/resource/museum-best-practices-for-managing-controversy?fbclid=IwAR3uFM5HZmBF93KNH90Nj1NDtcIeMVW-poDGntY-e9FgF3KgzoYNoTWmgU8</a></li><li>- The triennial should ally with the artist in the fight for censorship. It is the only way to maintain credibility.</li><li>- I enjoyed working with the staff of Aichi Triennale, who showed a lot of dedication, and it was a great experience for me. They gave me a lot of support to realise my project and am very thankful for it.</li><li>- 自由是有成本的，这我很理解，但没想到在日本的成本也会这么高。日本的文明程度在我心目中一直很高，这个事情的发生让我很意外。从长远来说，如果纵容这样的事情发生，会让人怀疑展览和美术馆的独立性。毕竟公众应该受到教育和启迪，而且我看到在关闭的前一天，观众排长队来观看展览，更加说明了这个事情必要性。整个社会不应该被少数几个暴徒所要挟，大家应该团结起来。</li></ul>

(注)個人名は役職名としてあります。